# 稲場遺跡

―県営経営体育成基盤整備事業（潟４期地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

2019

新潟県長岡市教育委員会

# 例　言

1．本書は、新潟県長岡市寺泊大地地内に所在する稲場遺跡の発掘調査報告書である。

2．今回の調査は、県営経営体育成基盤整備事業（潟４期地区）に伴うものであり、平成19年度と平成25年度に長岡市教育委員会が試掘確認調査を行い、本発掘調査は平成29年度に、報告書作成は平成30年度に長岡市が新潟県長岡地域振興局から委託を受けて実施した。

3．試掘確認調査に要した費用は文化財保護部局である長岡市教育委員会が負担し、国庫および県費の補助交付金を受けた。本発掘調査に要した費用は、事業の原因者である新潟県長岡地域振興局が費用の９割を負担した。また、長岡市が費用の１割を負担し、国庫および県費の補助交付金を受けた。

4．調査・整理体制は以下のとおりである。

（試掘確認調査）平成19年度

調 査 主 体　長岡市教育委員会（教育長　加藤孝博）
事　務　局　長岡市教育委員会科学博物館（館長　山屋茂人）
調 査 担 当　加藤由美子（長岡市教育委員会科学博物館主任）

（追加確認調査）平成25年度

調 査 主 体　長岡市教育委員会（教育長　加藤孝博）
事　務　局　長岡市教育委員会科学博物館（館長　山屋茂人）
調 査 担 当　加藤由美子（長岡市教育委員会科学博物館主査）

（本発掘調査）平成29年度

調 査 主 体　長岡市教育委員会（教育長　高橋　譲）
事　務　局　長岡市教育委員会科学博物館（館長　小熊博史）
調 査 担 当　加藤由美子（長岡市教育委員会科学博物館主査）
発掘調査員　丸山一昭（長岡市教育委員会科学博物館主査）
調査補助員　神林康子（株式会社大石組）
現場代理人　笹川順司（株式会社大石組）

（整理作業）平成30年度

調 査 主 体　長岡市教育委員会（教育長　高橋　譲）
事　務　局　長岡市教育委員会科学博物館（館長　小熊博史）
整 理 担 当　長岡市教育委員会科学博物館　主査　加藤由美子

5．発掘調査で出土した遺物及び測量図・写真等の記録類は、長岡市教育委員会で保管している。

6．遺物の注記は、遺跡略号「イナバ」の後、遺構名（出土位置）・層位等を記した。

7．本書の執筆は以下の者で分担して行い、編集は加藤が行った。

| | |
|---|---|
| 第Ⅳ章３（１）、同（２）Ａ～Ｄ・Ｆ | 丸山一昭（長岡市教育委員会） |
| 第Ⅳ章３（２）Ｅ | 小林　徳（長岡市教育委員会） |
| 上記以外 | 加藤由美子（長岡市教育委員会） |

8．発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の方々より多大なるご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。（五十音順・敬称略）

株式会社大石組　三島郡北部土地改良区　寺泊大地集落の皆様　新潟県長岡地域振興局
新潟県教育庁文化行政課　社団法人長岡市シルバー人材センター北事務所

# 目　次

第Ⅰ章　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第Ⅱ章　遺跡をとりまく環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1　遺跡の位置
　2　大地集落の歴史と周辺の遺跡

第Ⅲ章　調査の方法と経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　1　試掘確認調査
　2　本発掘調査と整理作業

第Ⅳ章　調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　1　調査区の設定と基本層序
　2　遺構
　3　遺物

第Ⅴ章　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

参考文献

# 挿図目次


第１図　遺跡の位置・・・・・・・・・・・・2
第２図　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・3
第３図　調査位置図・・・・・・・・・・・・4
第４図　小グリッド図・・・・・・・・・・・5
第５図　調査グリッド図・・・・・・・・・・5
第６図　土層柱状図・・・・・・・・・・・・6

第１表　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・3
第２表　遺構観察表・・・・・・・・・・・・11
第３表　遺物観察表　木製品・・・・・・・11
第４表　遺物観察表　土器（１）・・・・・12
第５表　遺物観察表　土器（２）・・・・・13
第６表　遺物観察表　土器（３）・・・・・14
第７表　遺物観察表　土製品・
　　石製品・石器・製鉄関連遺物・・14


# 図版目次


図版１　遺構分割図（１）
図版２　遺構分割図（２）
図版３　遺構分割図（３）
図版４　遺構詳細図（１）
図版５　遺構詳細図（２）
図版６　遺物実測図（１）
図版７　遺物実測図（２）
図版８　遺物実測図（３）
図版９　遺物実測図（４）
図版10　遺物実測図（５）
図版11　遺物実測図（６）
図版12　遺物実測図（７）
図版13　遺物実測図（８）
図版14　遺物実測図（９）
図版15　調査写真（１）
図版16　調査写真（２）
図版17　調査写真（３）
図版18　調査写真（４）
図版19　遺物写真（１）
図版20　遺物写真（２）
図版21　遺物写真（３）
図版22　遺物写真（４）
図版23　遺物写真（５）
図版24　遺物写真（６）

# 第Ⅰ章　調査に至る経緯

平成14年６月、新潟県長岡地域振興局（以下、「振興局」）と、寺泊町教育委員会（以下、「町教委」）は、寺泊町内で計画された県営経営体育成基盤整備事業（潟地区）に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。県営経営体育成基盤整備事業（潟地区）は全事業面積505haを５地域（期）に分割して計画され、事業対象地には複数の周知の遺跡が存在した。また、その他に未周知の遺跡の存在も考えられた。町教委は工事に先立って試掘確認調査を行い、その調査結果を元に再度両者で埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行うことを提案し、振興局はこれに合意した。平成18年１月１日、寺泊町は長岡市と合併し、経営体育成基盤整備事業（潟地区）に伴う発掘調査事業も新市へと引き継がれた。

平成19年４月、潟４期地区（吉・箕輪・本山・弁財天・大地・京ケ入・当新田・白岩）が事業採択されたことを受けて、長岡市教育委員会（以下、「市教委」）は同年10月から対象地内で試掘確認調査を実施した。その結果、新たに中使面遺跡（長岡市№1283、平成22年に稲場遺跡に統合）、幕島遺跡（長岡市№1284・燕市№47）、天王遺跡（長岡市№1285・燕市№119）の存在が明らかとなった。また、周知の遺跡である稲場遺跡（長岡市№1249）の範囲が拡大することを確認した。平成22年６月、市教委と振興局は調査結果を元に協議を行い、工事に際し十分な保護層が確保できる幕島遺跡は工事立会、工法上掘削が避けられない稲場遺跡と天王遺跡は本発掘調査とする方針を固めた。さらに、稲場遺跡・天王遺跡の面工事部分は盛り土による遺跡の保護を行い、本発掘調査は工事による掘削が避けられない排水路・パイプライン部分に限定することで合意した。遺跡の範囲を見極める必要が生じた稲場遺跡に関しては、平成25年12月に追加の確認調査を実施している。

振興局は平成29年５月１日付け長振農第3054号で稲場遺跡における土木工事の通知を県教委へ提出し、県教委から振興局へ同年５月２日付け教文第222号の２で稲場遺跡の発掘調査の指示が出された。振興局と長岡市は「稲場遺跡に関する協定書」を締結し、ここでは市教委が調査主体となり平成29年度に発掘調査を実施すること、整理作業及び報告書刊行は調査終了の翌年度中とすること、事業にかかる費用は振興局が事業費全体の９割、長岡市が１割を負担することが明記された。平成29年４月11日、両者間で稲場遺跡発掘調査の費用負担契約が締結し、同年５月、市教委は本発掘調査に着手した。

# 第Ⅱ章　遺跡をとりまく環境

## １　遺跡の概要

稲場遺跡は新潟県長岡市寺泊大地317ほか地内に所在する（第１図）。遺跡が立地する大地集落は、日本海に沿って延びる東頸城丘陵の西側丘陵の内陸側に位置する。西側丘陵から内陸側へは羊歯の葉状にいくつもの小丘陵が派生しており、大地集落はそのひとつの小丘陵の縁辺部に形成される。海岸線から直線距離で1.5kmと近いが、東頸城丘陵の尾根が障壁となり冬の日本海の強風を直接受けることはない。

稲場遺跡は、大地集落がある小丘陵の北面裾部とその北側の平地に立地する。現況は山林と水田・畑地で、標高は11.2～15.7m、遺跡の総面積は約16,000㎡である。平成13年７月、地元の住民が丘陵裾部の崖面で遺物を採集したことが契機となり遺跡に登録された（八重樫2006）。この時に採集された遺物に、焼成に失

散したあるいは二次焼成を受けたと考えられる須恵器の破片と焼土塊が含まれていたため、近隣に未周知の須恵器窯が存在する可能性が考えられた。その可能性を探るべく、遺跡の登録に先立ち現地の踏査を行ったが、新たな資料は得られなかった。踏査の結果を受け、稲場遺跡は古代の遺物包含地として登録された。

平成19年10月に市教委が実施した県営潟４期地区ほ場整備事業に伴う試掘確認調査では、稲場遺跡とその東側に立地する中使面遺跡の遺跡範囲が接することが判明した。平成22年６月、中使面遺跡を稲場遺跡に統合することとなり、稲場遺跡の範囲は拡大した。遺跡名の「稲場」は遺跡範囲のうち丘陵部に残る小字名で、水田部分の小字は「五十刈」「中使面」である。

第１図　遺跡の位置（1／250,000）

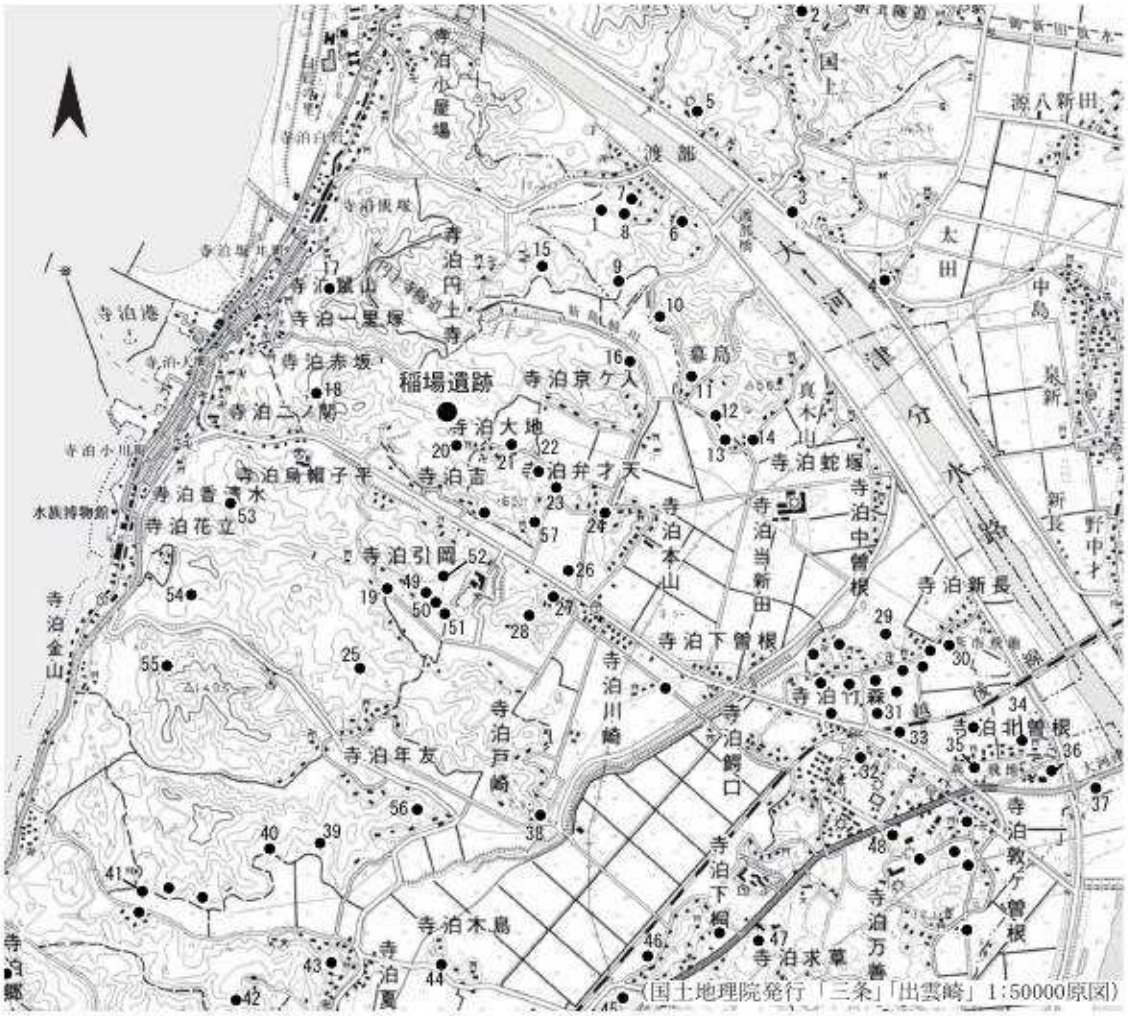
## ２　大地集落の歴史と周辺の遺跡

平成31年１月現在の大地集落の戸数は10戸で、寺泊地域のなかでも小規模な集落である。「大地」の地名は、承久の乱で佐渡に配流された順徳上皇が寺泊で風待ちをしていた期間に、この地を狩猟に訪れたことに由来する「王地」が転じたものとも伝えられる。

大地の北東の本山地区には、大正年間までほ場整備事業の地区名「潟地区」の由来でもある円上寺潟という湖沼が存在した。円上潟は大河津分水路工事の掘削残土で埋め立てられ干拓が進み、現在一帯は美田と化している。唯一本山地区に残る「弁財天験碑」の碑文が、在りし日の円上潟の大きさを五百余町歩（500ha）と伝えている。かつての円上寺潟周辺は水害の常襲地帯であった。大地集落は古くから円上寺潟に接する小丘陵の谷部を耕作地としてきたため、度々水害被害を受けたのではないかと想像されるが、地元の方の話によると、大地のとなりの京ケ入の田畑までは湛水しても、大地の方まで水が来ることは比較的少なかったとのことである。

かつての円上寺潟周辺には縄文時代中期から晩期にかけての遺跡が多く存在する。宝崎（9）・幕島（11）・京ヶ入（16）・小丸山（22）・居村前（26）・法崎（27）・七十歩（28）など、円上寺潟は内水面交通路としても利用されていたと考えられてる。弥生時代には遺跡数は減るものの、地表下８ｍの深さから弥生土器が出土した本山舞台島（24）がある。古墳時代も遺跡の数は少ないが、子持勾玉が出土した夕暮れの岡（3）が潟の縁辺部に存在する。古代になると遺跡数は増え、本書で報告する稲場遺跡のほか、京ケ入（16）、向屋敷（21）、弁才天窯跡（23）など、大地集落が立地する丘陵沿いに遺跡が密集する。

大地で代々庄屋を務めた山田家に伝わる「慶長二（1579）年蒲原郡大地村検地帳」によると、当時の大地村は蒲原郡に属し、黒滝城の「山岸中務少輔」の給地で「中使　市右衛門尉」に統括されていたことがわかる。大地には「中使面」という小字が残るが、これは「中使免」（中使への課税免除制度）に由来する地名である。近世の領主は、慶長３年春日山藩領、同12年福島藩領、同19年高田藩領、元和２年幕府領、同６年三条藩領、同９年幕府領、慶安２年村上藩領、宝永６年幕府領、正徳元年高田藩領、寛保元年白河藩領、文政６年桑名藩領で、その後明治に至る。文久３年（1863）の村明細鏡によると、石高は164石余、戸数12軒、85人で、用水は溜池の水を使い、20年に一度割地が行われていた。




第２図　周辺の遺跡（1／50,000）

| No. | 遺跡名 | 時代 | No. | 遺跡名 | 時代 | No. | 遺跡名 | 時代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 天王 | 古代・中世 | 22 | 小丸山 | 縄文 | 39 | 川西 | 縄文 |
| 2 | 国上寺遺跡群 | 古代・中世 | 23 | 弁才天窯 | 古代 | 40 | 夏戸窯 | 古代 |
| 3 | 夕暮れの岡 | 古墳 | 24 | 本山舞台島 | 弥生 | 41 | 古竹北 | 古代・中世 |
| 4 | 竹ヶ花 | 弥生・古墳・古代・中世 | 25 | 年友お経塚 | 不明 | 42 | 田頭城 | 中世(室町) |
| 5 | 居下 | 古代 | 26 | 居村前 | 縄文 | 43 | 夏戸城 | 中世(戦国) |
| 6 | 渡部城 | 中世(戦国) | 27 | 法崎 | 縄文 | 44 | 木島館 | 中世(室町) |
| 7 | カノ尾北 | 古代 | 28 | 七十歩 | 縄文 | 45 | 山王 | 縄文 |
| 8 | カノ尾南 | 古代 | 29 | 竹森城 | 中世(室町) | 46 | 土手上 | 古墳・古代 |
| 9 | 宝崎 | 縄文・古墳・古代・中世 | 30 | 草薙 | 縄文・弥生・古墳・古代 | 47 | 下桐松葉 | 縄文 |
| 10 | 穴ノ入 | 古代 | 31 | 諏訪田 | 弥生・古墳・古代・中世 | 48 | 鳥端 | 縄文 |
| 11 | 鼻島 | 縄文 | 32 | 横滝山 | 縄文・弥生・古墳・古代 | 49 | 金八雨乞山 | 古代 |
| 12 | 新保入 | 縄文・古代・中世 | 33 | 京田 | 古代 | 50 | 長八 | 古代 |
| 13 | 当新田山下 | 古代 | 34 | 野起 | 縄文・弥生・古墳 | 51 | 弥助 | 古代 |
| 14 | 道上 | 古代か | 35 | 太屋敷 | 古代 | 52 | 念仏塚群 | 不明 |
| 15 | 丸田 | 古代 | 36 | 北曽根 | 古代 | 53 | 大谷塚 | 不明 |
| 16 | 京ヶ入 | 縄文・古代 | 37 | 五千石 | 縄文・弥生・古墳・古代 | 54 | 馬道塚群 | 不明 |
| 19 | 金八 | 縄文・古墳・古代 | 38 | 熊ノ森 | 縄文 | 55 | 馬道塚 | 不明 |
| 20 | 幾面 | 中世 | 39 | 川西 | 縄文 | 56 | 年友城跡 | 中世(室町) |
| 21 | 向屋敷 | 縄文・古代・中世 | 38 | 熊ノ森 | 縄文 | 57 | 笠輪 | 古代 |

第１表　周辺の遺跡

# 第Ⅲ章　調査の方法と経過

## 1　試掘確認調査

稲場遺跡が含まれる潟４期地区の試掘確認調査は、平成19年10月１日から11月９日に実施した。調査の詳細については『平成19年度長岡市内遺跡調査報告書』（加藤2008）で報告のとおりである。その後、平成25年12月９日に追加の確認調査を行った。この調査結果は『平成25年度長岡市内遺跡調査報告書』（加藤2014）に報告済みである。

## 2　本発掘調査と整理作業

本発掘調査は平成29年５月10日から同年７月14日にかけて実施した。５月10日に重機による表土除去を開始し、５月15日から作業員を導入した人力による発掘作業に着手した。始めにサブトレンチを設定し、その後本格的な包含層発掘作業に入った。全体として遺構は少ないものの、局的に遺物が集中する状況が見られた。出土遺物の大半は古代の須恵器・土師器で、試掘確認調査の結果と合致する内容であった。基本層序はトレンチ内に等間隔に設定した土層観察ポイントにて検討した。５月24日に１トレンチの調査を終え、完掘写真を撮影した。次いで６月７日に２トレンチの調査を完了し、完掘写真を撮影した。６月15日、３トレンチの表土除去時から特に遺物の集中が見られた箇所をSX18と認定し、土層観察ベルトを残しながら調査を進めた。SX18からは古代の須恵器・土師器の破片が大量に出土した。同じ頃、SX18の北西エリアで数基のピットが検出され、柱材が残存しているものも見られたため、建物の復元を行うべく検討を行った。６月23日、３トレンチの完掘写真を撮影し、撮影後にピットの断ち割りを行い、柱材を取り上げた。７月14日、全ての機材を現場から撤去し発掘調査を終了した。

基礎整理作業は本発掘調査後に行い、報告書作成に向けての整理作業は平成30年度に行った。この際、特に脆弱な木製品（板材）６点の保存処理も行った。

# 第Ⅳ章　調査成果

## 1　調査区の設定と基本層序

今回の調査では、排水路及びパイプライン敷設予定部分に、幅２ｍのトレンチを３本設定した（第３図・第４図）。トレンチには10m区画の大グリッドを割り付けた。大グリッドは北からＡからＫ、西から東に１から29の記号を割り合てている。また、大グリッドの中に２ｍ区画の小グリッドを設定し、遺物の取り上げや遺構の位置情報の記録に使用した。

調査地の田面標高は１・２トレンチで11.2～12.0m、３トレンチで12.8～15.7mである。１トレンチから３トレンチに向かって徐々に標高が上がる地勢である。

第３図　調査位置図（1／5000）

基本層序は以下のⅠ～Ⅴ層に分けられた（第６図）。

Ⅰ層：耕作土

Ⅱ層：水田の床土

Ⅲ層：灰色粘質土（白色地山ブロック・炭含む、古代・中世の遺物包含層）

Ⅳ層：黄灰色粘質土（白色地山ブロック・炭含む、弥生～古代の遺物包含層）

Ⅴ層：黄灰色粘質土（弥生～古代の遺構確認面）

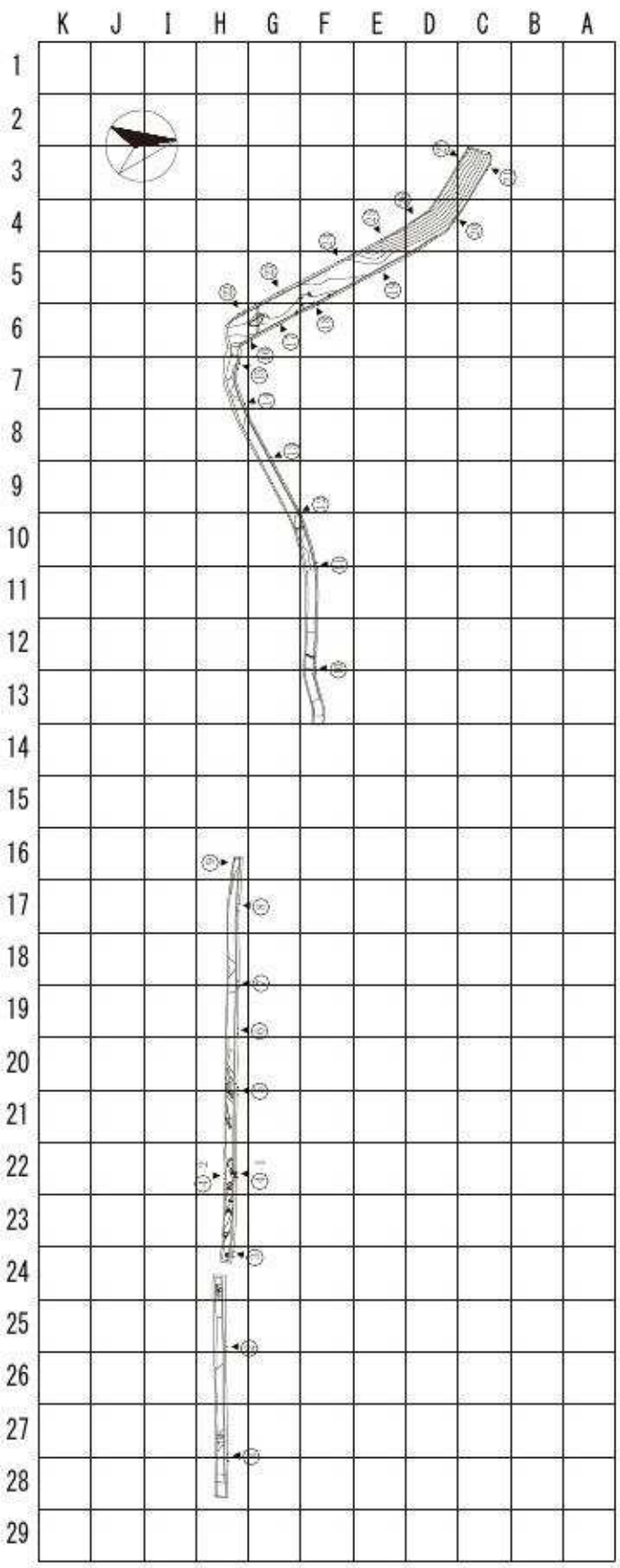
２トレンチの16H～21H間と３トレンチの６H・７H周辺で埋没谷を検出した。谷部には植物腐植土層（ガッポ層）が厚く堆積し、湧水が顕著であった。この植物腐植土層の上に弥生～古代の包含層であるⅣ層が堆積していることから、谷の埋没時期は弥生時代以前と推測される。また、３トレンチの９G～13F、３C～５F周辺はⅤ層より上の堆積土が薄く、Ⅴ層の検出レベルが他の地点より高い。このことから、元々この周辺は丘陵の裾が大きく迫り出す地勢であったと考えられ、現在の地形はその後の土地利用により、少なからず削平を受けていることが判明した。

調査では、遺物量が少ないⅢ層は重機による剥ぎ取りで状況を観察し、Ⅳ層は手掘りによる包含層発掘を行った。また、遺構確認はⅤ層上面で行った。

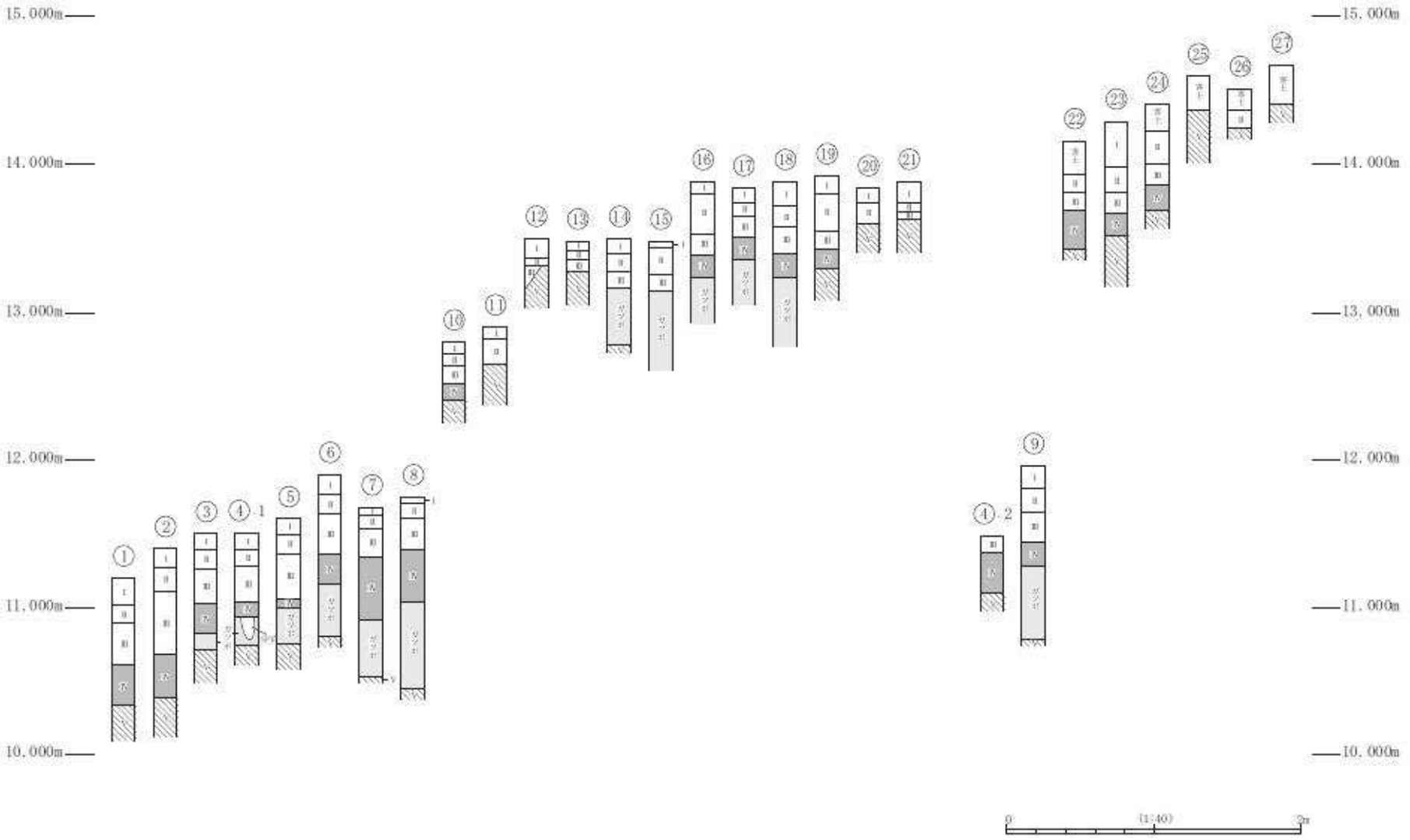
10m

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 10m | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |

第４図　小グリッド図




第５図　調査グリッド図（1／1,300）




第６図　土層柱状図（１／40）

## 2　遺構（図版１～５）

土坑（SK）５基、溝（SD）１条、不明遺構（SX）５基、ピット（SP）13基を検出した。今回はトレンチは幅が狭いため、面的な広がりを把握することができなかった。全体として遺構の密度は希薄だが、２トレンチの東端と３トレンチの６Ｈ・６Ｇ付近に遺構が集中する状況が見られた。遺構の時期は包含層遺物の時期である古代に帰属するするものが多い。以下に、遺物を伴う遺構を中心に記述する。

ＳＫ　SK3は底面が凹凸を呈する浅い土坑である。弥生時代の石鏃（149）が出土した。SK4からは土師器の小片が出土している。

ＳＤ　SD8は調査区外に伸びる溝で、覆土から土師器の破片が出土した。

ＳＸ　１トレンチを直行するように広がるSX1は、断面が皿状を呈する落ち込みである。弥生時代中期後半の甕（119）が出土した。稲場遺跡では数少ない弥生時代の遺構である。１トレンチ脇で検出されたSX2は平面が不定形を呈し、覆土から須恵器・土師器と羽口の小片が出土した。SX4からは土師器甕・坏の小片が出土した。SX18は３トレンチの埋没谷に接したエリアにあり、須恵器・土師器（３～13）が大量に出土した。遺物は不定形な落ち込みの覆土の上半から多く出土した。Ⅳ層と接しているため、一部は包含層資料として取り上げたものもある。遺構覆土の最上層は炭化物層で、ここで火を用いた何らかの行為が行われた可能性も考えられる。その後の整理作業で、遺物はこの場所で破砕されたものではないことが判明した。

ＳＰ　SP11・SP13・SP16・SP17の覆土から土師器片が出土した。いずれも小規模のピットで性格は不明だが、SP13には杭が残存している。SP19は柱根（152）が残存し、覆土から土師器片が出土した。SP20も柱根（153）と土師器片が出土した。SP19・SP20は建物を構成する柱穴と考えられ、対になるべきピットを周辺で探したが確認できなかった。SP19・SP20が構成する建物遺構は調査区外の東側の水田に広がっていた可能性がある。SP22は柱根の芯のみが残存していた。覆土から須恵器横瓶（１）も出土している。SP24は掘方を持たず、打ち込み式の杭が地山に刺さった状態で出土している。

## 3　遺物（図版６～14・19～24）

弥生土器、須恵器、須恵器、中世陶磁器、土製品、石製品、石器、製鉄関連資料、木製品が出土した。大半がⅣ層から出土し、遺構出土の遺物は少ない。木製品以外の遺物の総量はコンテナ15箱でこのうち５箱が須恵器、２箱が土師器である。以下に、木製品以外の遺物を遺構出土とそれ以外に分けて報告する。木製品については最後にまとめた。

なお、文中及び観察表で須恵器の胎土を以下のように分類した。Ａ群：胎土に石英・長石を多量に含み、器面が粗くざらついているもの。笹神丘陵の窯跡群など阿賀北地域が産地と推定される。Ｂ群：胎土に白色の小粒子を多く含み、器面が滑らかなもの。色調は青灰色のものが多く、器面には焼成時に黒色鉱物が噴出した斑点が見られるものがある。佐渡小泊窯跡群が産地と考えられる。Ｃ群：Ａ群・Ｂ群以外のものを一括した。胎土は精良だが５㎜前後の大きな長石を少量含む。推定される産地としては、類似した胎土や器形が存在する上越地域、あるいは古志郡内の在地窯の可能性があろう。

### (1) 遺構出土遺物

SP22　１は須恵器横瓶の口縁部片である。

SP24　２は須恵器甕の体部片である。外面に擬格子タタキが入念にされている。

SX18　３は須恵器Ｃ群の有台坏である。口径10.0㎝を測る。口縁部は外反し、体部から底部にかけて稜を

もち、高台は内端接地で外方に開く。底部外面はロクロケズリで調整されている。４は須恵器Ｃ群の無台坏である。口径12.2cmを測る。厚手の作りで、口縁部は直線的に開き、底部はやや丸みを帯びる。底部外面にはヘラ記号がみられる。５は土師器有台坏である。底径約10.6cmの大型品とみられ、内端接地する低い高台がつく。６・７は土師器無台坏である。須恵器技法により製作されたものと考えられる。口径は６が13.0cm、７が12.0cmと大小がある。８・９は須恵器Ｃ群の壺蓋である。天井部が低平で端部に面をもつもの（８）と天井部が狭く深く湾曲したもの（９）がみられる。10～13は土師器の煮炊具である。いずれもくの字口縁を呈し、ハケメ成形と考えられる。本遺構出土土器の所属時期は８世紀前半頃と考えられる。有台坏（３）の器形およびこれと共通する特徴をもつ14・15・18は、今池遺跡SK391B・140に類例がある（新潟県教委1984）。また、無台坏（４・６・７）は今池遺跡SK391Bや下ノ西遺跡SD201・202（和島村教委1998）に同様の法量のものがみられる。長甕はハケメ調整のものが主体で口縁端部の面取りがみられない。以上のことから、Ⅲ２期（春日1999、以下同じ。）に位置付けることができる。

SX1　119は弥生時代中期後半の甕である。内・外面ハケメ調整で口縁部内面には斜行短線文、頸部外面には簾状文・波状文が施されている。

SK3　149は石鏃である。基部にアスファルトが付着する。弥生時代のものと考えられる。

(2) 遺構外出土遺物

**A　古代の土器**

**須恵器食膳具**　14～20は８世紀前半から中葉の有台坏である。14・15・18は口縁部が外反し、高台は外方に開き内端接地する。底部外面はロクロケズリを施す。口径は14･15が11cm前後、18が8.5cmである。いずれも共通した特徴をもっており、同一の産地である可能性が高い。SX18出土の３も同じ製品であろう。16は口径14.2cm、器高4.5cmを測る大型品で、身はやや深い。体部は丸みを帯びて上方に伸び口縁部はわずかに外反する。高台は左右に拡張し、内端接地である。17は口径13.4cm、器高3.6cmを測り浅身である。体部・口縁部は直線的に短く開く。高台は内端接地である。19は大型の有台坏である。底径12.0cmの大型品で、底部外面にヘラ記号がみられる。20は底径7.8cmを測る浅身の有台坏である。21～33は９世紀前半～末頃の有台坏で、いずれもＢ群である。深身のタイプであるが、口径13cm前後の21・22、底径７～８cmの23～26・29～32は相対的に法量が大きく、27・28・33は法量が小さいものである。高台は断面が方形となるものや、内側を向くもの、丸みを帯びて段差が不明瞭なものがある。

34・35は10世紀初頭～前葉頃の須恵器Ｂ群の有台椀である。34は高台部が外方に伸びるものである。高台部には墨痕があり表面は平滑となっており、転用硯として使用されたことが分かる。35は断面が方形の高台をもつタイプで、ロクロナデの凹凸がやや目立つ。

36～46は坏蓋である。36・37・42・43・45が胎土Ｃ群のほかは、Ｂ群である。Ｃ群のものは口径16cm、13cm、12cmと法量差があり、カエリが明確に作りだされている。Ｂ群は口径15cm前後が主体で、カエリは丸く潰れ気味のものが多い。42～44は須恵器坏蓋の転用硯、45・46は墨書土器である。45は坏蓋内面に「万」と墨書されている。線は３㎜ほどで墨痕は濃い。とめ･はらいが明瞭である。46は坏蓋外面に「日」と墨書がある。線は５～７㎜で太い。36・37・42がⅢ２期頃、45がⅤ期、38・39がⅥ１期、40・41・44・46がⅥ２・３期と考えられる。

47～57は無台坏である。50～53が胎土Ｃ群のほかはＢ群である。47は無台坏の打ち欠き片で、縁辺は波形を呈している。食器以外の用途で再利用されたものと考えられる。48・49は墨書土器で、48は「口

伯」とある。線は２㎜前後と細く字形は整っている。49は欠損のため不明であるが、線は５㎜ほどと太い。50は口径13.8㎝、器高3.1㎝を測り低平である。51は口径14.0㎝で、器高は3.1㎝と低い。外面に漆が付着している。52は口径14.0㎝、器高3.7㎝とやや深身である。底部を回転ヘラキリののち底部～体部下にケズリ調整を行っている。53は口径13.0㎝、器高3.6㎝を測り深身である。54～57は口径12.0㎝前後、底径7.0㎝以下で、口縁部が開き底部付近は丸味を帯び薄手のつくりである。50がⅢ２期、51～53がⅣ１期、54～57がⅥ２・３期と考えられる。

**須恵器貯蔵具**　58～63・65・66・74～78は長頸瓶である。口径で概ね３つに分類でき、口径5.4㎝の58、11～12㎝ほどの59・60、17㎝の61が認められる。63は肩部が外に張り出し内端接地となる高台をもつ。65は広口で口縁部が短く開くものである。66は須恵器胎土Ｂ群の三耳壺と考えられる。体部の凸帯に断面三角錘状の耳を貼り付け、上方から刺突している。孔は貫通している。63がⅥ３～Ⅴ期頃のものであるほかは、Ⅵ期を中心としたものと考えられる。74～78は長頸瓶などの底部片である。高台の幅が太いもの（74・75）、相対的に細いもの（76～78）がある。

64は壺蓋である。天井部が平坦で口縁部が下方へ伸びるもので短頸壺の蓋と考えられる。

67は脚高の高台をもつ短頸壺であろう。

68～72・81は横瓶である。口径は11～13㎝までが確認される。71は体部の直径が大きく閉塞部が平坦になる。

73は壺と考えられる。外面は平行タタキ、内面は菊花状の当て具痕がみられる。

79・80・84～89は甕である。79・80は櫛描波状文を施す甕の口縁部である。83～86は甕などの体部片、87～89は甕の口縁部片である。

**土師器・黒色土器食膳具**　90は須恵器技法で製作された土師器坏蓋で外面に赤彩が確認される。

91は須恵器技法で製作された土師器有台坏で、底径は10.4㎝である。Ⅲ２～Ⅳ期頃と考えられる。

92～96は黒色土器の無台椀である。口径13～14㎝、底径６～８㎝を測る。

97～100は土師器の無台椀である。底径は５㎝未満から６㎝以上の大小がある。100は口縁部が大きく開くが底部は98同様に小さいものと考えられる。底径からみてⅥ～Ⅶ期のものと考えられる。

**土師器煮炊具**　101～105・113・114は小甕である。ロクロ成形のもの（101～105）とハケメ成形のもの（113・114）がある。101～103は口縁部が短く開き端部が上方に摘み上げられる。104・105の底部外面には糸切痕が認められる。113・114は胎土に厚手のつくりで石英・長石の砂粒が多く混入している。

106～110・112は長甕である。ロクロ成形・須恵器技法のもの（106・107・109・110）とハケメ成形のもの（108・112）がある。ハケメ成形の胎土は小甕と同様に石英・長石の砂粒が多い。

111は煮炊具の把手である。ハケメ成形の煮炊具につく角形の把手と考えられる。

115はロクロ成形の甑で底部単孔である。桟木孔はないが、底部内面に突起がみられる。

117は製塩土器で、底部が平底を呈するものである。底径6.0㎝の小型で薄手の作りである。

### Ｂ　古代以外の土器

**弥生土器**　118は弥生時代中期後半の甕である。

**中・近世の陶磁器**　120～122は白磁である。120・122は口縁部が玉縁となる椀である。12世紀後半頃と考えられる。

123～132は土師質土器の小皿・皿である。小皿は柱状高台の123とそれ以外の平底があり、底径３～

5㎝未満である。129はやや厚底で口縁部が直線的に開くもので，口縁端部にタール状の炭化物が付着し，灯明皿に使用されたと考えられる。皿は柱状高台の130や口径の大きな131、直線的に立ち上がる132がある。小皿は129が12世紀後半頃のほかは11世紀後半頃を中心とし、皿は130が12世紀、132が14世紀のものと考えられる。

133・134は珠洲焼である。133は片口鉢、134は甕の体部片と考えられる。135は越前焼の甕体部片である。136は唐津焼の皿である。

**C　土製品**

82は須恵器の甕の体部片を利用した加工円盤で、用途は不明である。116は円筒形土製品である。直径19㎝を測る。輪積痕を残すタイプのものであろう。

**D　石製品**

137は石製の丸鞆である。帯に固定するくぐり孔が一か所確認できる。表面・側面を平滑に磨いている。138～143は砥石である。140・141の置き砥石以外は手持ち砥石である。142・143は軽石製で、無数の擦痕や敲打痕が確認できる。

**E　石器**

144は敲石である。148・150は石鏃である。148が縄文時代晩期、150は弥生時代中期と考えられる。151は磨製石斧の破片である。

**F　製鉄関連遺物**

145は鞴の羽口である。外径6.4㎝、内径3.0㎝に復元される。146・147は椀形鍛冶滓である。

**G　木製品**

152はSP19の柱材、153はSP20の柱材である。いずれも下端にはつり痕が明瞭に残る。154はSP24の杭である。その他は主に2トレンチの西半で検出した埋没谷中のⅣ層相当層からの出土である。155～161は孔が開けられた板材で容器の部材と考えられる。161～167・169～171・173・174も用途は不明だが板材である。このうち174は近現代の材の可能性もある。168は端部に樺皮と思われる綴じ皮が残る材である。172は紐などによる擦れ痕のような痕跡が残る棒状製品である。179・180は付け木で端部が黒く炭化している。

# 第Ⅴ章　まとめ

調査の結果、稲場遺跡は弥生時代中期、古代（8世紀前半～10世紀前葉）、中世にかけて断続的に営まれたことが判明した。大地地内で最も古い遺跡は、縄文時代晩期の小丸山遺跡である。小丸山遺跡は稲場遺跡よりも円上寺潟に丘陵裾部に立地しており、潟が縄文時代の生活に重要な役割を占めていたことが推測される。次の弥生時代は遺跡数が少なく人々の動きが見えにくい状況にあったが、今回の調査で弥生時代中期の遺物が出土したことで、稲作にふさわしい標高の高い場所に生活拠点を移していった可能性が出てきた。古代になるとその傾向は顕著で、小丘陵に挟まれた谷の奥から開発が進んでいく状況が、潟地区ほ場整備事業で本発掘調査を行った引岡の金八遺跡や夏戸の吉竹北遺跡でも確認されている。稲場遺跡では最も標高の高い3トレンチで古代でも古手（8世紀前半）の遺物が多く出土している。このことから、古代の集落はまず今の大地集落よりも谷の深部に形成され、耕作地の拡大と共に徐々に今の集落の場所へと下りてきたと考えられる。

## 参考文献


加藤由美子　2008「寺泊潟地区試掘・確認調査」『平成19年度長岡市内遺跡調査報告書』長岡市教育委員会
加藤由美子　2014「稲場遺跡確認調査」『平成25年度長岡市内遺跡調査報告書』長岡市教育委員会
春日　真実　1999「第４章第２節　土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編　古志書院
寺　泊　町　1992『寺泊町史』通史編　上巻・下巻
寺　泊　町　1990『寺泊町史』資料編２　近世
新潟県教育委員会　1984『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集　今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』
八重樫由美子　2006「長岡市稲場遺跡採集の土器」『越佐補遺些』第11号　越佐補遺些の会
和島村教育委員会　1998『和島村埋蔵文化財調査報告書第７集　下ノ西遺跡』


## 第２表　遺構観察表

| 図版No. | 遺構名 | 位置 | | 形状 | | 規模(cm) | | | 底面標高(m) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | トレンチ | グリッド | 平面形 | 断面形 | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| 4 | SX1 | 1T | 27H3・4 | － | 弧状 | 140 | (130) | 11 | 10.24 |
| | SX2 | 1T | 24H5 | 不整形 | 弧状 | 257 | (59) | 12 | 10.55 |
| | SK3 | 1T | 24H5 | 楕円形 | 不整な弧状 | (93) | (60) | 9 | 10.59 |
| | SX4 | 2T | 22H5 | 円形 | 弧状 | 52 | 52 | 13 | 10.96 |
| | SK5 | 2T | 22H4・5 | 楕円形 | 台形状 | 92 | 74 | 19 | 10.86 |
| | SK6 | 2T | 22H3 | 円形 | 台形状 | 61 | 53 | 7 | 10.97 |
| | SK7 | 2T | 22H2 | 楕円形 | 台形状 | 41 | 34 | 3 | 11.02 |
| | SD8 | 2T | 21H2～4 | － | 弧状 | (507) | 60 | 10 | 10.98 |
| | SK9 | 2T | 24H1 | 不整形 | 漏斗状 | 83 | 60 | 32 | 10.61 |
| | SX10 | 2T | 23H4・5 | 不整形 | 弧状 | 99 | 69 | 25 | 10.64 |
| | SP11 | 2T | 23H1 | 楕円形 | 半円状 | 42 | 32 | 17 | 10.74 |
| | SP12 | 2T | 23H2 | 楕円形 | 弧状 | 47 | 37 | 13 | 10.74 |
| | SP13 | 2T | 23H2 | 楕円形 | 弧状 | 60 | 25 | 17 | 10.66 |
| 5 | SP14 | 2T | 22H3 | 円形 | 弧状 | 18 | 18 | 8 | 10.90 |
| | SP15 | 2T | 22H4 | 円形 | 弧状 | 30 | 26 | 7 | 10.52 |
| | SP16 | 3T | 12F4 | 円形 | 半円状 | 31 | 31 | 20 | 12.36 |
| | SP17 | 3T | 12F4 | 円形 | 半円状 | 31 | 28 | 14 | 12.32 |
| | SX18 | 3T | 6G17・18・22・23 | 不整形 | 弧状 | 302 | 130 | 11 | 13.35 |
| | SP19 | 3T | 6F21 | 円形 | 階段状 | 35 | 33 | 37 | 13.00 |
| | SP20 | 3T | 5F15 | 円形 | 階段状 | 27 | (15) | 39 | 12.98 |
| | SP21 | 3T | 5F15 | 円形 | 弧状 | (19) | 17 | 7 | 13.28 |
| | SP22 | 3T | 5F25 | 円形 | 階段状 | 46 | 44 | 35 | 13.06 |
| | SP24 | 3T | 6G1 | 円形 | 漏斗状 | (24) | 22 | 33 | 12.82 |
| | SP25 | 3T | 5F25 | － | － | 13 | 10 | 5 | 13.29 |

## 第３表　遺物観察表　木製品

| 図版No. | 遺物No. | 出土位置 | | | 層位 | 種別 | 法量（cm） | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | トレンチ | 遺構名 | グリッド | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | |
| 12 | 152 | 3T | SP19 | | 履土 | 木柱 | 45.2 | 19.7 | 19.9 | |
| | 153 | 3T | SP20 | | 履土 | 木柱 | 30.5 | 17.7 | 11.2 | |
| | 154 | 3T | SP24 | 6G1 | 履土 | 杭 | 40.3 | 7.8 | 6.6 | |
| 13 | 155 | 2T | | 19H2 | Ⅳ | 木製品 | 26.4 | 4.5 | 0.9 | |
| | 156 | 2T | | 16H2 | ガツボ | 板材 | 24.7 | 4.8 | 0.6 | |
| | 157 | 2T | | 16H2 | ガツボ | 板材 | 21.9 | 3.9 | 0.6 | |
| | 158 | 3T | | 5F8 | Ⅳ－1 | 板材 | 17.4 | 5.6 | 0.7 | |
| | 159 | 2T | | 19H2 | Ⅳ | 木製品 | 14.6 | 4.5 | 1.8 | |
| | 160 | 2T | | 16H2 | ガツボ | 板材 | 14.0 | 4.5 | 0.6 | |
| | 161 | 2T | | 17H2 | Ⅳ | 板材 | 13.6 | 2.9 | 0.4 | |
| | 162 | 2T | | 19H5 | ガツボ | 板材 | 18.1 | 4.3 | 1.3 | |
| | 163 | 2T | | 16H5 | Ⅳ | 板材 | 16.3 | 2.2 | 2.2 | |
| | 164 | 3T | | 5E12 | Ⅳ－1 | 板材 | 11.9 | 3.0 | 0.8 | |
| | 165 | 2T | | 19H2 | Ⅳ | 板材 | 9.5 | 2.2 | 0.4 | |
| | 166 | 2T | | 19H2 | Ⅳ | 板材 | 9.0 | 2.1 | 0.5 | |
| | 167 | 2T | | 16H5 | Ⅳ | 板材 | 9.8 | 2.2 | 0.5 | |
| | 168 | 1T | | 25H4 | Ⅳ | 木製品 | 11.0 | 2.0 | 0.8 | |
| 14 | 169 | 2T | | 19H1 | ガツボ | 板材 | 28.2 | 6.3 | 1.2 | |
| | 170 | 2T | | 19H1 | ガツボ | 板材 | 11.2 | 5.3 | 1.4 | |
| | 171 | 2T | | 19H3 | ガツボ | 木製品 | 33.2 | 3.7 | 1.1 | |
| | 172 | 2T | | 19H1 | ガツボ | 木製品 | 25.1 | 4.1 | 4.0 | |
| | 173 | 2T | | 16H2 | ガツボ | 木製品 | 9.6 | 3.5 | 0.6 | |
| | 174 | 2T | | 23H5 | Ⅲ | 板材 | 2.9 | 7.8 | 1.0 | |
| | 175 | 3T | | 5E21 | Ⅳ－1 | 板材 | 11.0 | 2.5 | 1.1 | |
| | 176 | 2T | | 17H | ガツボ | 木製品 | 9.5 | 1.8 | 1.5 | |
| | 177 | 1T | | 25H3 | Ⅳ | 木製品 | 20.0 | 1.7 | 1.3 | |
| | 178 | 2T | | 16H5 | Ⅳ | 木製品 | 18.8 | 3.1 | 1.5 | |
| | 179 | 2T | | 16H5 | Ⅳ | 板材 | 5.6 | 1.0 | 0.5 | |
| | 180 | 2T | | 17H2 | Ⅳ | 木製品 | 9.8 | 1.5 | 1.3 | |

## 第４表　遺物観察表　土器（１）

| 図版No. | 遺物No. | 出土位置 | | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 胎土 | 含有物 | 色調 | 焼成 | 回転 | 調整等 | | 切り離し技法 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | トレンチ | グリッド | 遺構名 | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | 内面/外面 | | | 内面 | 外面 | 底部/天井部 | |
| 6 | 1 | 3T | 5F23 | SP23 | Ⅳ | 須恵器 | 横瓶 | 11.2 | | | C | 白 | 灰白/灰白 | 還・硬 | | Rナデ　当て具 | Rナデ | | |
| | 2 | 3T | 5H12 | SP24 | Ⅳ | 須恵器 | 甕類 | | | | B | 白 | 灰白/灰 | 還・やや軟 | | 当て具 | タタキ | | |
| | 3 | 3T | 6G16 | SX18 | 覆土 | 須恵器 | 有台坏 | 10.0 | 6.0 | 4.8 | C | | 灰白/灰白 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 内外：降灰 |
| | 4 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 須恵器 | 無台坏 | 12.2 | 7.2 | 3.9 | C | 白・長 | 灰/灰 | 還・硬 | 右 | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | ヘラ記号　重ね焼痕 |
| | 5 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 土師器 | 有台坏 | | 10.6 | | | 赤 | 灰白/橙 | 酸・やや軟 | | | | | |
| | 6 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 土師器 | 無台坏 | 13.0 | 8.0 | 3.4 | | 赤 | にぶい橙/にぶい橙 | 酸・やや軟 | | | | | 須恵器技法 |
| | 7 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 土師器 | 無台坏 | 12.2 | 10.0 | 3.1 | | | 淡橙/淡橙 | 酸・やや軟 | | | | | 須恵器技法 |
| | 8 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 須恵器 | 壺蓋 | 19.0 | | | C | 白・長・石 | 灰/灰 | 還・やや軟 | | Rナデ | Rナデ　ケズリ | | |
| | 9 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 須恵器 | 壺蓋 | 13.7 | | | C | 白 | 明紫灰/明紫灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ　ケズリ | | 外：降灰　重ね焼痕 |
| | 10 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 土師器 | 甕類 | | | | | 石・長・チ | にぶい橙/褐灰 | 還・硬 | | | | | 非ロクロ |
| | 11 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 土師器 | 甕類 | | | | | 石・長・チ | にぶい橙/褐灰 | 還・硬 | | | | | 非ロクロ |
| | 12 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 土師器 | 長甕 | | | | | 石・長・チ | 浅黄橙/浅黄橙 | 還・硬 | | | | | 非ロクロ |
| | 13 | 3T | 6G17・18・22・23 | SX18 | 覆土 | 土師器 | 長甕 | 17.6 | | | | 長・石 | 浅黄橙/浅黄橙 | 還・やや軟 | | | | | 非ロクロ |
| | 14 | 3T | 6H3・6G24 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | 11.2 | 7.2 | 3.5 | C | 長・石・白 | 灰白/灰白 | 還・やや軟 | 右 | Rナデ | Rナデ　ケズリ | | 内外：降灰 |
| | 15 | 3T | 5F9 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | 10.8 | 7.4 | 3.5 | C | 長・石・白 | 灰白/灰白 | 還・軟 | | Rナデ | Rナデ　ケズリ | | |
| | 16 | 3T | 12F3 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | 14.4 | 9.8 | 4.7 | C | 長・白・石 | 灰白/灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | |
| | 17 | 3T | 6F16 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | 13.4 | 8.8 | 3.6 | C | 黒・石・長 | 灰白/灰 | 還・軟 | | Rナデ | Rナデ | | 打ち欠き |
| | 18 | 3T | 5F3 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | 8.5 | 5.2 | 3.8 | C | | 灰/灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ　ケズリ | | 内外：降灰 |
| | 19 | 1T | 25H2 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 12.0 | | C | 石・白・黒 | 灰/灰 | 還・やや軟 | 右 | Rナデ | Rナデ　ケズリ | | 底外：ヘラ記号 |
| | 20 | 3T | 5F19 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 9.2 | | C | 石・長 | 灰/灰 | 還・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 底に墨痕か |
| | 21 | 2T | 24H | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | 13.8 | | | B | 白 | 灰白/灰 | 還・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 22 | 2T | 18H | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | 12.9 | | | B | 白 | 灰/灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 23 | 2T | 24H | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 7.5 | | B | 白 | 灰/灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | |
| | 24 | 1T | 25H1・25H2 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 7.2 | | B | 白・黒 | 青灰/青灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 25 | 2T | 24H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 7.2 | | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 外～底：降灰 |
| | 26 | 2T | 24H | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 6.6 | | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 還・硬 | 左 | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | |
| 7 | 27 | 2T | 24H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 6.2 | | B | 白 | 灰白/灰白 | 還・硬 | 右 | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | |
| | 28 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 6.2 | | B | 白・黒 | 灰/灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | |
| | 29 | 2T | 16H | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 7.2 | | B | 白・黒 | 灰/灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 外～底：降灰 |
| | 30 | 2T | 23H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 7.0 | | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | |
| | 31 | 1T | 25H | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 8.0 | | B | 白・黒 | 灰白/灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 外～底：降灰 |
| | 32 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 7.8 | | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 還・硬 | 左 | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | |
| | 33 | 1T | 26H | | Ⅳ | 須恵器 | 有台坏 | | 5.2 | | B | 白・黒 | 灰白/灰 | 還・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 内面：降灰 |
| | 34 | 2T | 25H3 | | Ⅳ | 須恵器 | 有台椀 | | 8.0 | | B | 白 | 灰白/灰白 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 転用硯　割れ口にも墨痕 |
| | 35 | 2T | 24H | | Ⅳ | 須恵器 | 有台椀 | | 7.0 | | B | 白 | 青灰/青灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 36 | 3T | 5F3・5E23 | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 16.2 | | 3.4 | C | 長・石・白 | 灰白/灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 外：降灰 |
| | 37 | 3T | 6F16・5F2・3・6 | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | (13.3) | | (3.4) | C | 黒・長 | 灰白/灰 | 還・硬 | 右 | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 焼きゆがみあり |
| | 38 | 2T | 23H | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 15.0 | | | B | 黒 | 灰白/灰白 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 39 | 2T | 23H | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 15.3 | | | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 重ね焼痕 |
| | 40 | 2T | 24H | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 13.6 | | | B | 白・黒 | 明青灰/明青灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 重ね焼痕 |
| | 41 | 1T | 25H2 | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 15.4 | | | B | 白・黒 | 明青灰/明青灰 | 還・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 42 | 3T | 6G24・6G24・6 | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 16.0 | | 2.9 | C | 長・石・海 | 灰白/灰白 | 還・硬 | 右 | Rナデ | Rナデ　ケズリ | | 転用硯 |
| | 43 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 12.0 | | | C | 長 | 青灰/青灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 転用硯　重ね焼痕 |
| | 44 | 2T | 23H | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | | | | B | 白・黒 | 青灰/青灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 転用硯 |
| | 45 | 2T | 21H5・22H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 15.8 | | 3.1 | C | 長・石・黒 | 灰白/灰白 | 還・軟 | 左 | Rナデ | Rナデ　ケズリ | | 墨書「万」 |
| | 46 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 須恵器 | 坏蓋 | 14.0 | | | B | 白 | 暗青灰/青灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 墨書「日」 |
| | 47 | 3T | 6G24 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台坏 | | | | C | 黒・長 | 灰白/灰白 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 火撚　打ち欠き |
| | 48 | 3T | 5F20 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台坏 | | | | B | 白・黒 | 青灰/青灰 | 還・やや軟 | | | Rナデ | ヘラ切り | 墨書「口伯」 |
| | 49 | 1T | 25H | | Ⅳ | 須恵器 | 無台坏 | | 7.4 | | B | | 灰白/灰白 | 還・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 墨書「口」 |
| | 50 | 3T | 6G24 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台坏 | 13.8 | 8.4 | 3.1 | C | 白・黒・海 | 明青灰/明青灰 | 還・硬 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | |
| | 51 | 3T | 11F5 | | Ⅲ | 須恵器 | 無台坏 | 14.0 | 9.8 | 3.1 | C? | 石・白 | 黄灰/黄灰 | 還・軟 | | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 漆液付着 |
| | 52 | 3T | 5F20 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台坏 | 14.0 | 9.0 | 3.7 | C | 黒・白・長・石 | 灰白/暗灰 | 還・やや軟 | 右 | Rナデ | Rナデ　ケズリ | ヘラ切り | 外：降灰 |

## 第５表　遺物観察表　土器（２）

| 図版No. | 遺物No. | 出土位置 | | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 胎土 | 含有物 | 色調 | 焼成 | 回転 | 調整等 | | 切り離し技法 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | トレンチ | グリッド | 遺構名 | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | 内面/外面 | | | 内面 | 外面 | 底部／天井部 | |
| 7 | 53 | 3T | 6H4 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台杯 | 13.0 | 7.8 | 3.6 | C | 石・長 | 灰白/灰白 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 54 | 1T | 25H1・25H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台杯 | 12.0 | 7.4 | 2.7 | B | 白・黒 | 青灰/青灰 | 堅・やや軟 | 左 | Rナデ | Rナデ | ヘラ切り | 重ね焼痕 |
| | 55 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台杯 | 12.6 | 7.0 | 3.1 | B | 白・黒 | 青灰/青灰 | 堅・やや軟 | 左 | Rナデ | Rナデ | | 重ね焼痕 |
| | 56 | 2T | 24H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台杯 | 12.2 | 6.8 | 3.0 | B | 白 | 灰/灰 | 堅・軟 | | Rナデ | Rナデ | | 重ね焼痕 |
| | 57 | 2T | 22H6 | | Ⅳ | 須恵器 | 無台杯 | 13.2 | 6.4 | 4.0 | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 堅・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | 重ね焼痕 |
| 8 | 58 | 1T | 25H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | 5.4 | | | B | 白 | 暗灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 内:降灰 |
| | 59 | 3T | 5H20 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | 11.2 | | | B | 白 | オリーブ灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 内:降灰 |
| | 60 | 2T | 24H1 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | 12.0 | | | B | 白 | 灰白/灰白 | 堅・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | 内:降灰 |
| | 61 | 1T | 25H1 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | 17.0 | | | B | 白 | 灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 内:降灰 |
| | 62 | 3T | 6F16 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | | | | B | 白 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 59と同一個体か 外:降灰 |
| | 63 | 3T | 5F4 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | | | | A | 石・長・黒 | 明青灰/明青灰 | 堅・硬 | 左 | Rナデ | Rナデ | | 外:自然釉 |
| | 64 | 3T | 5H12 | | Ⅳ | 須恵器 | 壺蓋 | | | | B | 白 | 灰白/灰白 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 外:降灰 |
| | 65 | 2T | 17H1 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | | | | B | 海・白・黒 | 灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 66 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | | | | B | 白 | 灰白/灰 | 堅・軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 67 | 2T | 21H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 短頸壺 | | 11.0 | | B | 白・黒 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 68 | 3T | 5F21 | | Ⅳ | 須恵器 | 横瓶 | 11.4 | | | C | 黒・長 | 灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ 当て具 | Rナデ | | 内:降灰 |
| | 69 | 1T | 25H6 | | Ⅳ | 須恵器 | 横瓶 | 12.0 | | | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 堅・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 70 | 3T | 5F20 | | Ⅳ | 須恵器 | 横瓶 | 13.0 | | | B | 白 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | Rナデ 当て具 | Rナデ タタキ | | 内外:降灰 |
| | 71 | 3T | 6G24・6H4 | | Ⅳ | 須恵器 | 横瓶 | | | | B | 白・黒 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | 当て具 | タタキ | | 96と同一個体? 外:降灰 |
| | 72 | 2T | 22H1・23H4 | | Ⅳ | 須恵器 | 横瓶 | | | | C | 石・黒・白 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | タタキ | | |
| | 73 | 3T | 16H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 壺 | | | | C? | 長・白・黒 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | 当て具 | タタキ | | |
| | 74 | 3T | 5F14 | | 砂 | 須恵器 | 長頸瓶 | | | | B | 白 | 灰白/灰白 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 75 | 1T | 25H2 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | | 14.4 | | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 76 | 1T | 23H1・25H2ほか | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | | | | B | 白・黒 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 内:降灰 |
| | 77 | 3T | 5F19 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | | 11.0 | | C | 白 | 灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 内:降灰 |
| | 78 | 3T | 6F16 | | Ⅳ | 須恵器 | 長頸瓶 | | 9.0 | | B | 白 | 灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| 9 | 79 | 3T | 6F20 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | | | | C | 長 | 灰白/灰白 | 堅・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | 口:櫛描文 |
| | 80 | 3T | 12F5 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | | | | C | 長・石 | 灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | 口:櫛描文 |
| | 81 | 2T | 24H4 | | Ⅳ | 須恵器 | 横瓶 | | | | C? | 白・黒 | 灰/灰 | 堅・硬 | | 当て具 | タタキ | | 外:溶着物 |
| | 83 | 2T | 21H5 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | | | | C | 長・黒 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | 当て具 | タタキ | | 漆付着 |
| | 84 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | | | | B | 白・黒 | 灰白/灰白 | 堅・硬 | | 当て具 | タタキ | | |
| | 85 | 2T | 24H4 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | | | | B | 黒 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | 当て具 | タタキ | | |
| | 86 | 1T | 25H2 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | | | | B | 白 | 灰白/灰白 | 堅・硬 | | 当て具 | タタキ | | 漆付着 |
| | 87 | 2T | 21H4 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | 52.0 | | | B | 白 | オリーブ灰/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 88 | 1T | 25H1 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | 33.0 | | | B | 白 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 89 | 2T | 24H4 | | Ⅳ | 須恵器 | 甕 | 68.0 | | | B | 白・黒 | 灰白/灰 | 堅・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 90 | 3T | 6G23 | | Ⅳ | 赤彩土師器 | 坏蓋 | | | | C | | 灰白/灰白 | 酸・軟 | | Rナデ | | | |
| | 91 | 3T | 6G18 | | Ⅳ | 土師器 | 有台杯 | | 10.4 | | C | 赤 | 灰黄/灰黄 | 酸・軟 | | | Rナデ | ヘラ切り | |
| | 92 | 1T | 25H1 | | Ⅳ | 黒色土器 | 無台椀 | 14.0 | | | D | 白 | 黒/黄褐 | 堅・硬 | | ミガキ | Rナデ ミガキ | | |
| | 93 | 1T | 25H1 | | Ⅳ | 黒色土器 | 無台椀 | 13.2 | | | D | | 黒/にぶい黄橙 | 堅・硬 | | ミガキ | Rナデ ミガキ | | |
| | 94 | 1T | 25H1 | | Ⅳ | 黒色土器 | 無台椀 | | 6.0 | | D | | 黒/黄褐 | 堅・硬 | | ミガキ | Rナデ ミガキ | | |
| | 95 | 2T | 24H2 | | Ⅳ | 黒色土器 | 無台椀 | | 7.8 | | D | 石・チ | 黒/にぶい黄橙 | 酸・やや軟 | | ミガキ | | | |
| | 96 | 2T | 24H4 | | Ⅳ | 黒色土器 | 無台椀 | | 8.0 | | E | 石・海 | 黒/にぶい黄橙 | 酸・やや軟 | | ミガキ | | | |
| | 97 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 土師器 | 無台椀 | | 6.6 | | C | 赤・白・石 | にぶい黄橙/にぶい黄橙 | 酸・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 98 | 1T | 25H1 | | Ⅳ | 土師器 | 無台椀 | | 4.8 | | B | | にぶい橙/にぶい橙 | 酸・硬 | 右 | Rナデ | Rナデ | 糸切 | 右 |
| | 99 | 1T | 25H1 | | Ⅳ | 土師器 | 無台椀 | | 5.6 | | E | 白・海 | にぶい黄橙/にぶい黄橙 | 酸・硬 | 右 | Rナデ | Rナデ | 糸切 | 右 |
| | 100 | 2T | 21H5 | | Ⅳ | 土師器 | 無台椀 | 14.0 | | | E | 赤・海 | 浅黄橙/浅黄橙 | 酸・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| 10 | 101 | 2T | 16H5 | | Ⅳ | 土師器 | 小甕 | 12.8 | | | B | | 橙/橙 | 酸・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 102 | 3T | 5F14 | | Ⅳ | 土師器 | 小甕 | | | | E | 白・石・赤 | にぶい橙/にぶい橙 | 酸・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 103 | 3T | 5F23 | | Ⅳ | 土師器 | 小甕 | | | | E | 白・赤・石 | にぶい橙/にぶい橙 | 酸・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 104 | 2T | 16H4 | | Ⅳ | 土師器 | 小甕 | | 5.8 | | B | | にぶい黄橙/にぶい黄橙 | 酸・硬 | 右 | Rナデ | Rナデ | 糸切 | 右 |
| | 105 | 1T | 25H2 | | Ⅳ | 土師器 | 小甕 | | 6.0 | | B | 白・石 | 灰白/褐灰 | 酸・硬 | 右 | Rナデ | Rナデ | 糸切 | 右 |

## 第6表　遺物観察表　土器（3）

| 図版No. | 遺物No. | 出土位置 | | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 胎土 | 含有物 | 色調 | 焼成 | 回転 | 調整等 | | 切り離し技法 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | トレンチ | グリッド | 遺構名 | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | 内面/外面 | | | 内面 | 外面 | 底部／天井部 | |
| 10 | 106 | 1T | 25H2 | | Ⅳ | 土師器 | 長甕 | | | | C | | 灰白/灰白 | 酸・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 107 | 2T | 24H1 | | Ⅳ | 土師器 | 長甕 | 20.8 | | | B | 石・長 | にぶい橙/にぶい橙 | 酸・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 108 | 3T | 6G18 | | Ⅳ | 土師器 | 長甕 | | | | A | 石・長 | にぶい黄橙/にぶい黄橙 | 酸・やや軟 | | | | | 非ロクロ |
| | 109 | 2T | 20H5 | | Ⅳ | 土師器 | 長甕 | | | | E | 石・チ | にぶい黄橙/にぶい黄橙 | 酸・硬 | | 当て具 | タタキ | | |
| | 110 | 2T | 23H4 | | Ⅳ | 土師器 | 長甕 | | | | E | 長・石・白 | にぶい橙/浅黄橙 | 酸・硬 | | 当て具 | タタキ | | |
| | 111 | 3T | 6G23 | | Ⅳ | 土師器 | 把手 | | | | A | 長・石・チ | 橙/橙 | 酸・硬 | | | | | 坐女外の把手 (1な同一個体か) |
| | 112 | 3T | 6H3 | | Ⅳ | 土師器 | 長甕 | | 11.0 | | F | 石・長 | 褐灰/にぶい橙 | 酸・やや軟 | | | | | 非ロクロ |
| | 113 | 3T | 6G24 | | Ⅳ | 土師器 | 小甕 | | 7.8 | | F | 石・長 | 橙/にぶい橙 | 酸・やや軟 | | | | | 非ロクロ |
| | 114 | 3T | 6H8 | | Ⅳ | 土師器 | 小甕 | | 7.6 | | | 石・長 | 橙/橙 | 酸・やや軟 | | | | | 非ロクロ |
| | 115 | 3T | 5F7 | | Ⅳ | 土師器 | 甑 | | 16.0 | | B | 長・石・赤・チ | 浅黄橙/浅黄橙 | 酸・やや軟 | | | | | |
| | 116 | 2T | 19H4 | | Ⅳ | 土製品 | 円筒形土製品 | | 19.0 | | B | 石・長 | にぶい黄橙/黒褐 | 酸・硬 | | | | | |
| | 117 | 2T | 23H2 | | Ⅳ | 土師器 | 製塩土器 | | 6.0 | | | 石・長 | 浅黄橙/浅黄橙 | 酸・やや軟 | | | | | |
| | 118 | 1T | 27H3 | | Ⅳ | 弥生土器 | 甕 | | 6.6 | | | 石・長・海 | 黒/褐 | 酸・硬 | | | ハケメ | | |
| | 119 | 1T | 27H3-4 | SX1 | 覆土 | 弥生土器 | 甕 | 17.4 | | | | 長・チ・石 | にぶい黄橙 | 酸・硬 | | ハケメ | ハケメ | | 器形にゆがみあり |
| | 120 | 2T | 16H5 | | Ⅳ | 白磁 | 碗 | | | | | | 灰白/灰白 | | | | | | |
| | 121 | 2T | 17H2 | | Ⅳ | 白磁 | 碗 | | 5.6 | | | | 灰白/灰白 | | | | | | |
| | 122 | 1T | 27H1 | | Ⅳ | 白磁 | 碗 | 14.0 | | | | | 灰白/灰白 | | | | | | |
| | 123 | 2T | 16H4 | | Ⅳ | 土師質土器 | 柱状高台皿 | | 3.6 | | B | 長・石 | 灰黄/灰黄 | 酸・やや軟 | | | | 糸切 | |
| | 124 | 2T | 16H6 | | Ⅳ | 土師質土器 | 小皿 | | 4.0 | | B | 赤・長・石 | にぶい橙/にぶい黄橙 | 酸・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 125 | 1T | 25H3 | | Ⅳ | 土師質土器 | 小皿 | | 4.8 | | B | 赤・石 | 浅黄橙/にぶい橙 | 酸・やや軟 | 右 | Rナデ | Rナデ | 糸切 | |
| | 126 | 1T | 27H1 | | Ⅳ | 土師質土器 | 小皿 | | 3.0 | | C | 赤・海 | にぶい橙/にぶい橙 | 酸・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | 糸切 | |
| | 127 | 1T | 15H13 | | Ⅳ | 土師質土器 | 小皿 | | 3.2 | | | 赤・海 | 浅黄橙/浅黄橙 | 酸・やや軟 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 128 | 2T | 16H4 | | Ⅳ | 土師質土器 | 小皿 | | 3.8 | | B | 白 | 褐灰/にぶい黄橙 | 酸・硬 | | Rナデ | Rナデ | 糸切 | |
| | 129 | 2T | 17H1 | | Ⅳ | 土師質土器 | 小皿 | 8.6 | 4.7 | 3.2 | B | 白・赤・海 | にぶい黄橙/にぶい黄橙 | 酸・やや軟 | 右 | Rナデ | Rナデ | 糸切 | |
| | 130 | 2T | 16H5 | | Ⅳ | 土師質土器 | 柱状高台皿 | | 8.0 | | C | | 灰黄/灰黄 | 酸・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 131 | 2T | 16H4 | | Ⅳ | 土師質土器 | 皿 | 18.0 | | | | | 褐灰/灰白 | 酸・硬 | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 132 | 2T | 23H5 | | Ⅳ | 土師質土器 | 皿 | 14.0 | | | C | 石(微細) | 灰赤/灰赤 | 酸・やや軟 | | ナデ | ナデ | | |
| 11 | 133 | 3T | 6G21 | | Ⅳ | 珠洲 | 片口鉢 | | | | | | 灰/灰 | | | Rナデ | Rナデ | | |
| | 134 | 2T | 16H4 | | Ⅳ | 珠洲 | 甕 | | | | | | 灰/灰 | | | | タタキ | | |
| | 135 | 2T | 19H4 | | Ⅳ | 越前 | 甕 | | | | | | 灰/灰 | | | | タタキ | | |
| | 136 | 3T | 23H4 | | Ⅳ | 唐津 | 碗 | 11.0 | | | | | 灰オリーブ/灰オリーブ | | | | | | |

## 第7表　遺物観察表　土製品・石製品・石器・製鉄関連遺物

| 図版No. | 遺物No. | 出土位置 | | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量(cm) | | | 胎土 | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | トレンチ | グリッド | 遺構名 | | | | 長軸 | 短軸 | 厚さ | | | |
| 11 | 82 | 2T | 23H5 | | Ⅳ | 土製品 | 加工円盤 | 2.7 | 1.8 | 1.4 | C? | 6 | 須恵器 |
| | 137 | 2T | 24H1 | | Ⅲ | 石製品 | 丸鞆 | (1.9) | (0.6) | 0.5 | − | 1 | 帯飾り |
| | 138 | 3T | 6F16 | | Ⅳ | 石製品 | 砥石 | 9.7 | 3.5 | 3.2 | − | 123 | |
| | 139 | 2T | 24H4 | | Ⅳ | 石製品 | 砥石 | 9.3 | 4.6 | 4.7 | − | 232 | |
| | 140 | 2T | 21H5 | | Ⅳ | 石製品 | 砥石 | 10.0 | 6.1 | 3.5 | − | 352 | |
| | 141 | 2T | 23H4 | | Ⅳ | 石製品 | 砥石 | 9.3 | 8.2 | 2.4 | − | 166 | |
| | 142 | 2T | 19H2 | | Ⅳ | 石製品 | 砥石(軽石) | 6.4 | 5.5 | 3.6 | − | 26 | |
| | 143 | 2T | 22H1 | | Ⅳ | 石製品 | 砥石(軽石) | 5.7 | 4.3 | 4.1 | − | 15 | |
| | 144 | 2T | 21H4 | | Ⅳ | 石器 | 敲石 | 8.8 | 7.1 | 3.0 | − | 238 | |
| | 145 | 2T | 16H4 | | Ⅳ | 製鉄関連遺物 | 羽口 | − | − | − | − | − | 復元外径:6.4cm、復元内径:3.0cm |
| | 146 | 2T | 23H4 | | Ⅳ | 製鉄関連遺物 | 椀形鍛冶滓 | 7.6 | 5.1 | 2.6 | − | 129 | |
| | 147 | 2T | 24H2 | | Ⅳ | 製鉄関連遺物 | 椀形鍛冶滓 | 4.6 | 4.1 | 2.2 | − | 67 | |
| | 148 | 2T | 23H4 | | Ⅰ | 石器 | 石鏃 | 2.12 | 1.3 | 0.38 | − | 1 | 珪質頁岩製 |
| | 149 | 2T | 24H4 | SK3 | 覆土 | 石器 | 石鏃 | 2.0 | 1.5 | 0.45 | − | 1 | 珪質頁岩製 |
| | 150 | 3T | 6H3 | | Ⅳ | 石器 | 石鏃 | 3.1 | 1.2 | 0.5 | − | 1 | 凝灰岩製 |
| | 151 | 3T | 5E23 | | Ⅳ | 石器 | 磨製石斧 | − | − | − | − | 5 | 緑色岩製 |

# 図　　版

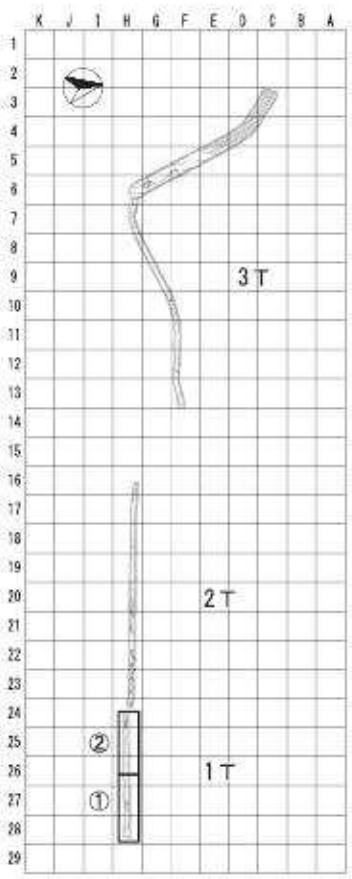
**凡例**

1　遺構図中のスクリーントーンは以下のものを示す。

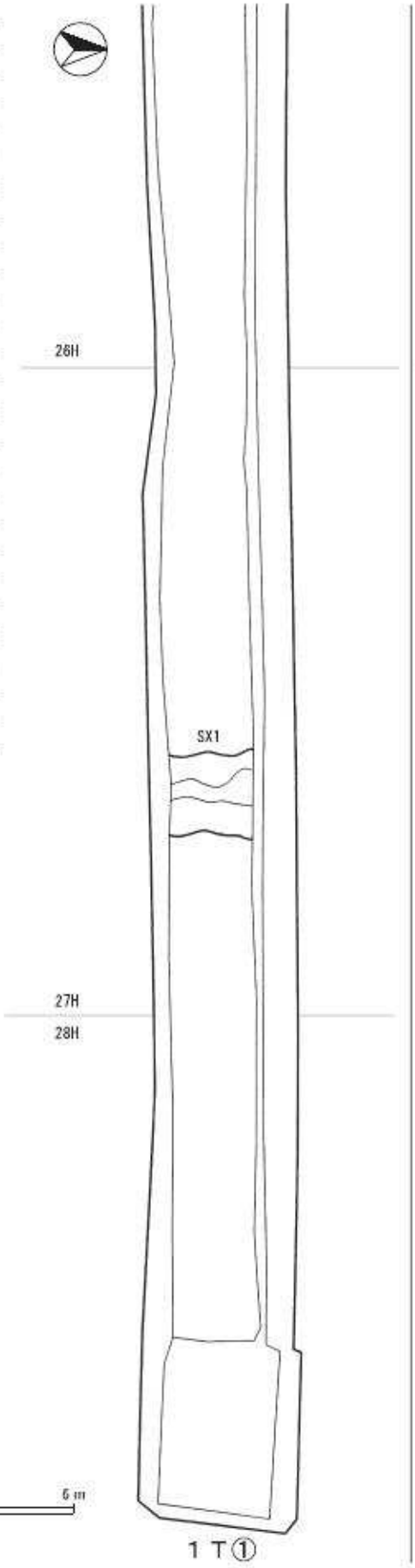
地　山

2　遺物の番号と縮尺は写真図版と実測図とで統一してある。ただし、遺物№137 丸鞆の縮尺は、写真図版は等倍、実測図は 1／2 である。

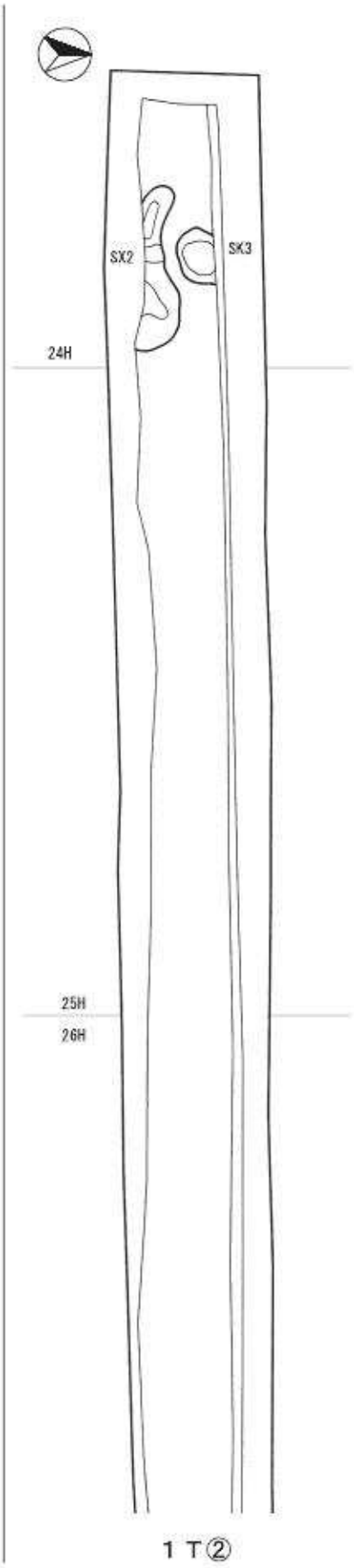
3　土層の土色観察は『新版　標準土色帖 2003 年度版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を用いた。


K J I H G F E D C B A
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29
3T
2T
1T
②
①


0
(1：100)
6m

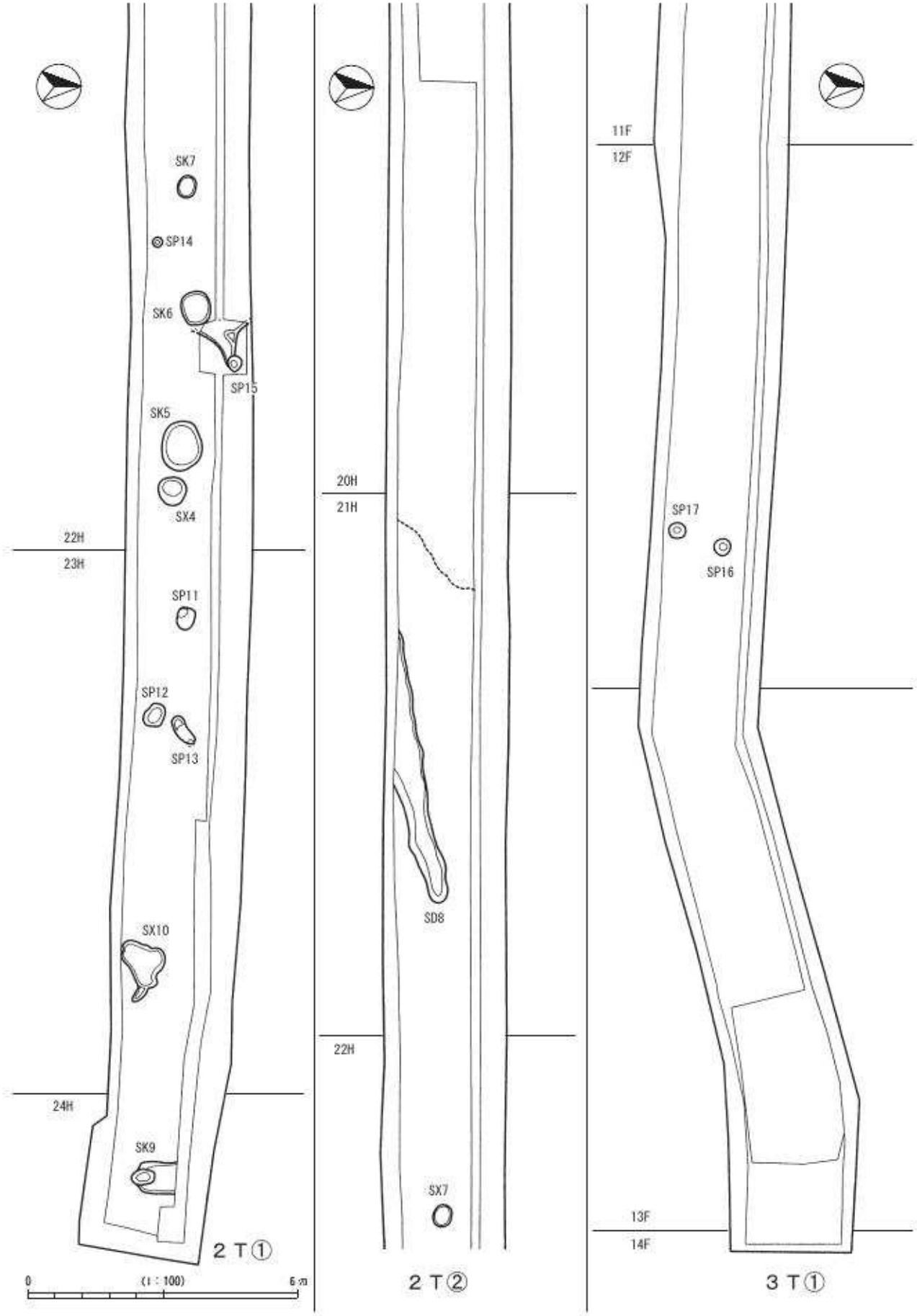

26H
SX1
27H
28H

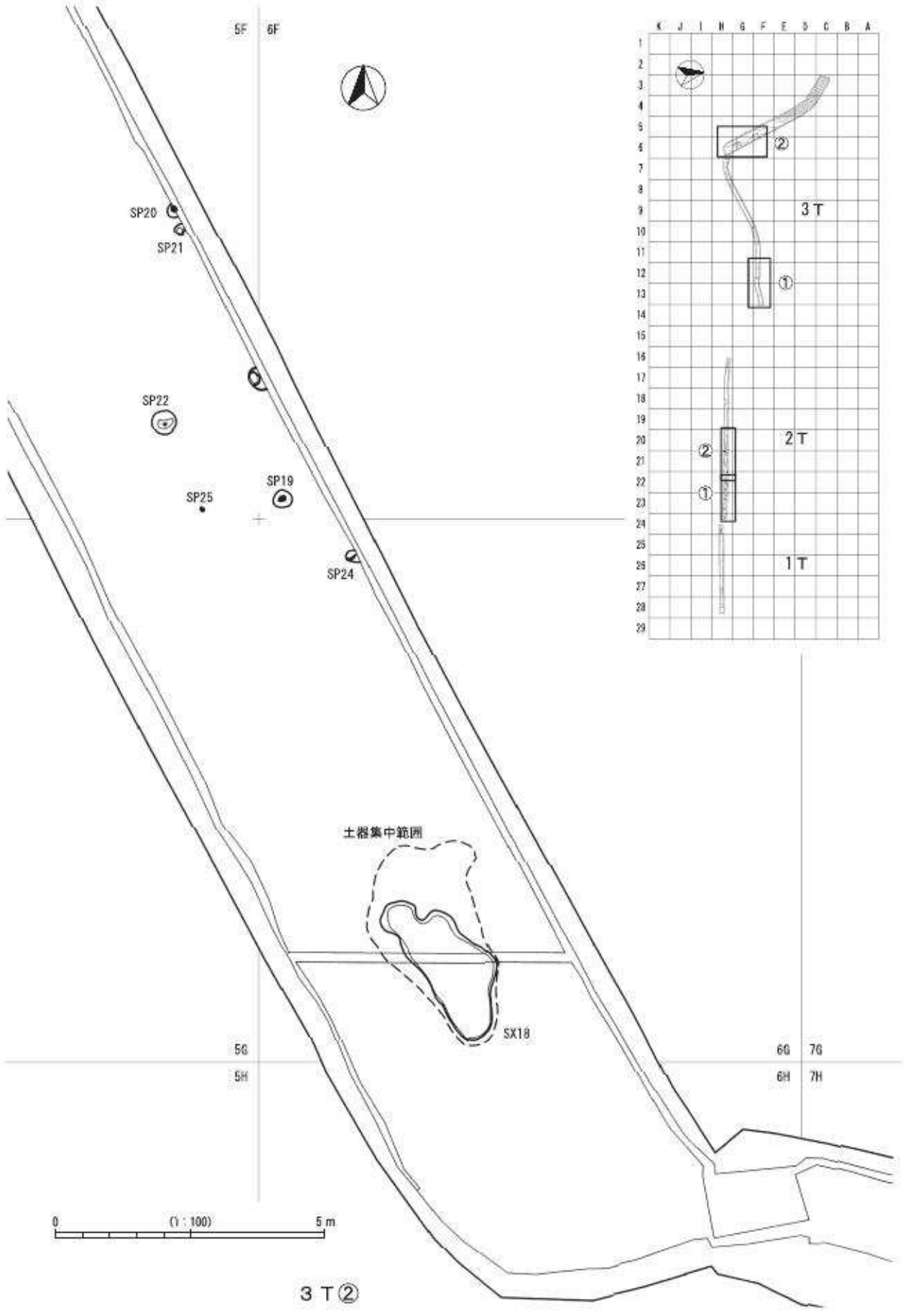
1T①

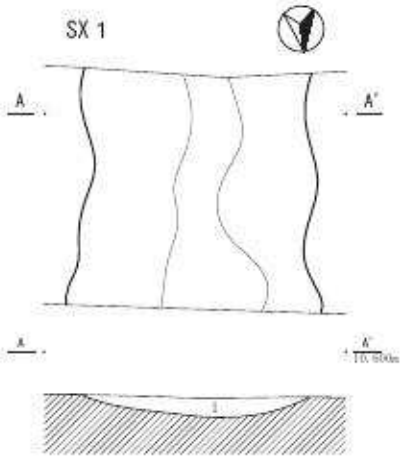

SX2
SK3
24H
25H
26H

1T②

# 遺構分割図（２）

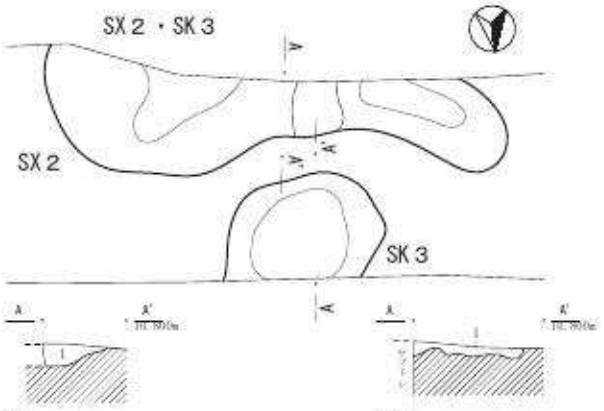

SK7
SP14
SK6
SP15
SK5
SX4
22H
23H
SP11
SP12
SP13
SX10
24H
SK9
２Ｔ①
0
(1：100)
6m
20H
21H
SD8
22H
SX7
２Ｔ②
11F
12F
SP17
SP16
13F
14F
３Ｔ①


5F
6F
SP20
SP21
SP22
SP19
SP25
SP24
土器集中範囲
SX18
5G
5H
6G
7G
6H
7H
K J I H G F E D C B A
3T
2T
1T
①
②
①
②
0
(1：100)
5m
３Ｔ②




SX１

１　黄灰色粘質土（φ１cmの炭含む、遺物含む、粘性強、しまり強）

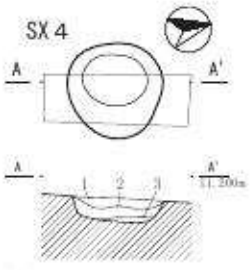



SX２

１　黄灰色粘質土（φ２cmの炭多く含む、粘性強、しまり中）

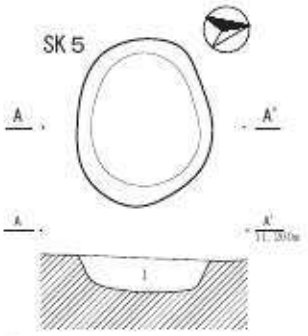
SK３

１　黒褐色粘質土（φ３mmの炭含む、遺物含む、粘性強、しまり強）



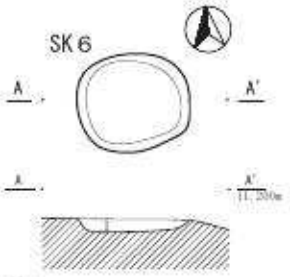

SX４

１　褐灰色粘質土（φ２cmの炭含む、粘土ブロック含む、遺物含む、粘性弱、しまり弱）
２　黒色粘質土（炭を多量に含む、粘性強、しまり弱）
３　炭



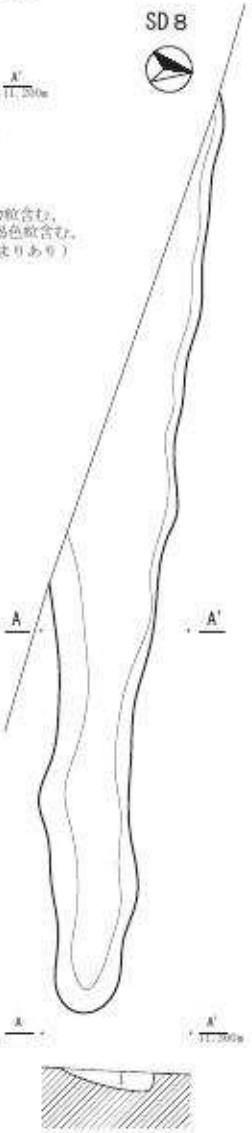

SK５

１　暗灰色粘土（φ１cmの炭化物多く含む、φ１～３cmの地山粒含む、粘性あり、しまりややあり）



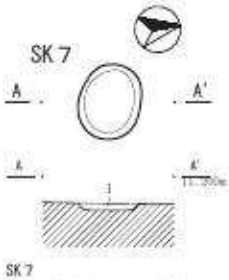

SK６

１　灰色粘土（φ２～６mmの炭化物粒含む、φ0.５～３cmの地山由来の黄褐色粒含む。焼土粒を少量含む、粘性・しまりあり）



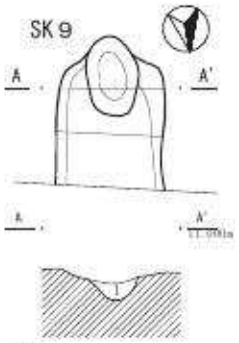

SD８

１　暗灰色粘土（φ２mmの炭化物・地山粒含む、粘性あり、しまり弱、自然木あり）



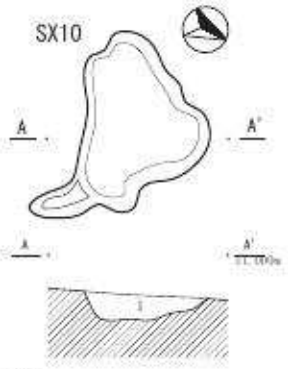

SK７

１　灰色粘土（φ２mmの炭含む、φ0.２～１cmの地山ブロック含む、粘性あり、しまりややあり）



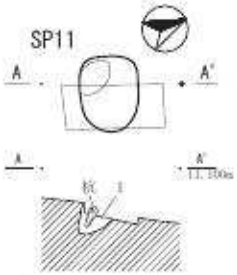

SK９

１　灰色粘土（φ３mmの炭化物含む、粘性・しまりあり）



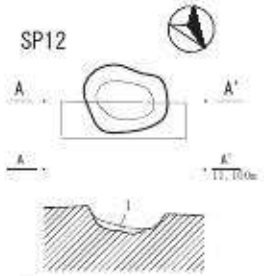

SX10

１　暗灰色粘質土（φ１cmの炭・地山ブロック含む、粘性強、しまり中）



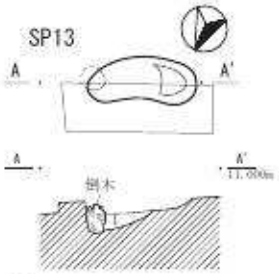

SP11

１　暗灰色粘土（粘性あり、しまり弱）



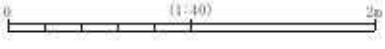

SP１２

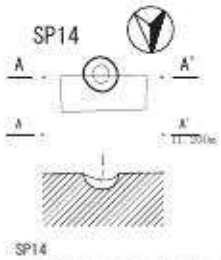
１　青灰色砂質粘土（地山ブロック・灰色粘土ブロック含む、粘性少しあり、しまり弱）



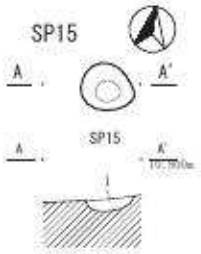

SP13

１　暗灰色粘土（炭化物少量含む、粘性・しまりあり）

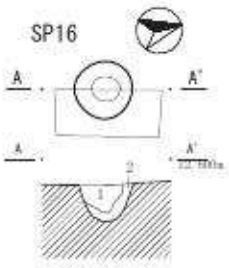




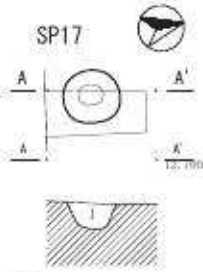

SP14
1 暗色粘土（粘性・しまりあり）



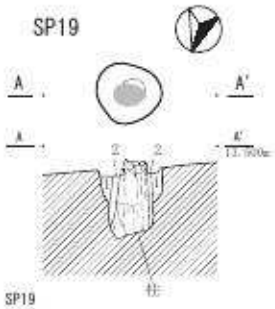

SP15
1 暗灰色粘土
（φ2～3㎜の炭化物含む、
粘性・しまりあり）
2 暗灰色粘土
（φ2～3㎜の炭化物含む、
粘性あり、しまり弱、
白然木多い）



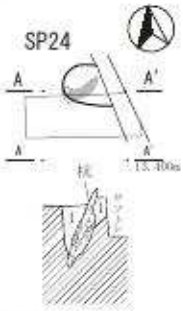

SP16
1 暗灰色粘土（粘性・しまりあり）
2 灰色粘土（地山ブロック多く含む、
粘性・しまりあり）



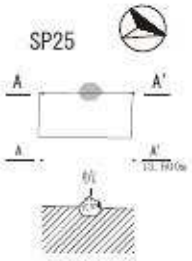

SP17
1 灰色粘土（粘性・しまりあり）



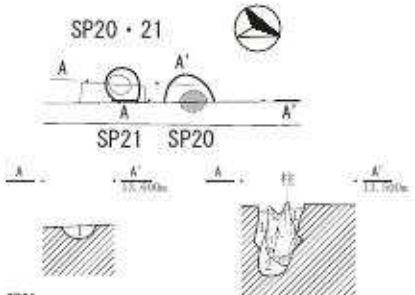

SP19
1 灰色粘土（φ2～3㎜の炭化物含む、
φ3㎝の地山ブロック含む、
粘性・しまりあり）
2 暗灰色粘土（粘性あり、しまり弱、柱痕）




SP24
1 暗褐色粘質土（粘性強、
しまり中）

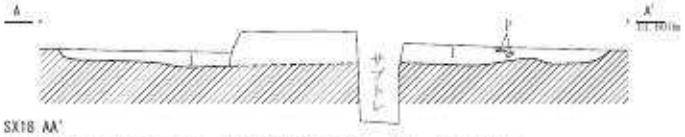



SP25
打ち込み式の杭

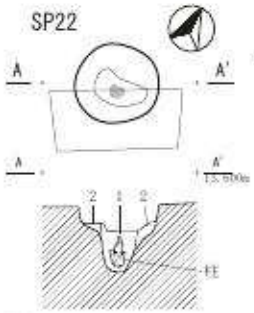



SP21
1 暗灰色粘質土
（φ2㎜の炭含む、
粘性中、しまり中）

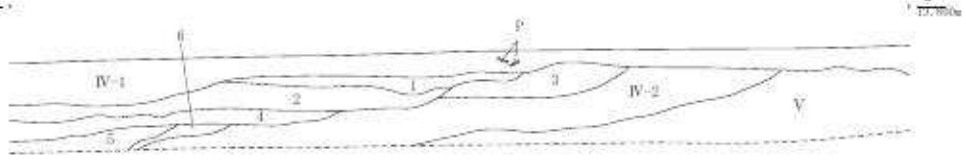
SP20
1 暗灰色粘質土
（φ5㎜の炭含む、粘性強、
しまり中）
2 暗灰色粘質土（粘性中、
しまり中、柱痕）




SX18 AA'
1 灰色粘土（土器含む、φ1㎝の炭化物を多量に含む、粘性・しまりあり）



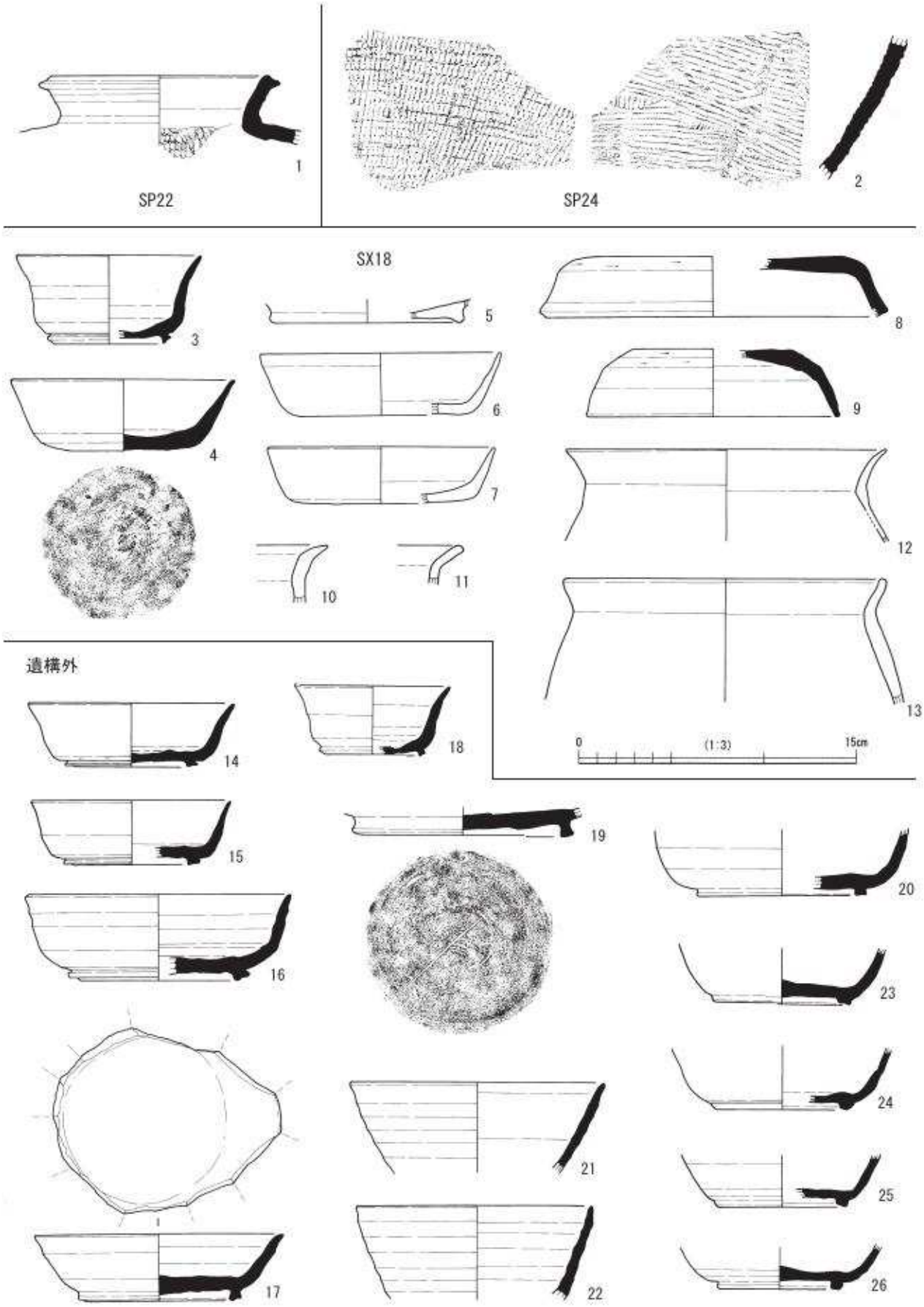

SP22
1 暗褐色粘質土（φ5㎜の炭含む、
粘性中、しまり中、柱痕）
2 暗褐色粘質土
（φ1～5㎝の地山ブロック多く含む、
粘性中、しまり強）

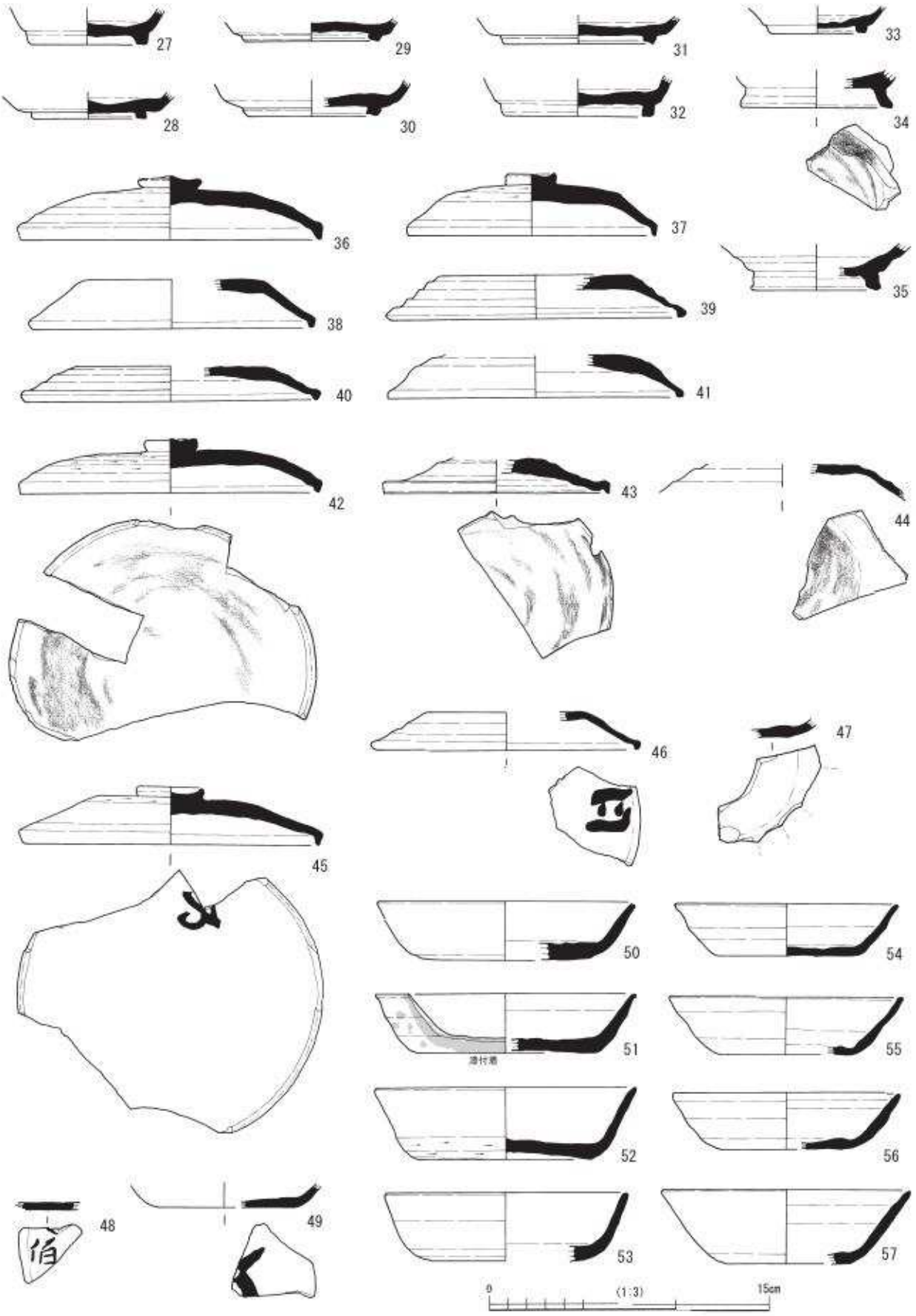



SX18 BB'
1 【SX18 覆土】灰色粘土（土器含む、φ1㎝の炭化物を多量に含む、粘性・しまりあり）
2 青灰色シルト（φ3～5㎝の地山ブロックとシルトの互層、粘性・しまり弱）
3 灰色粘土（φ5㎜の地山粒子を含む）
4 暗褐色粘土（植物腐食土が少量混じる、粘性あり、しまり弱）
5 青灰色シルト（φ1～2㎝の地山ブロックとシルトの互層、粘性・しまり弱）
6 灰色粘土（シルト混じる、粘性あり、しまり弱）

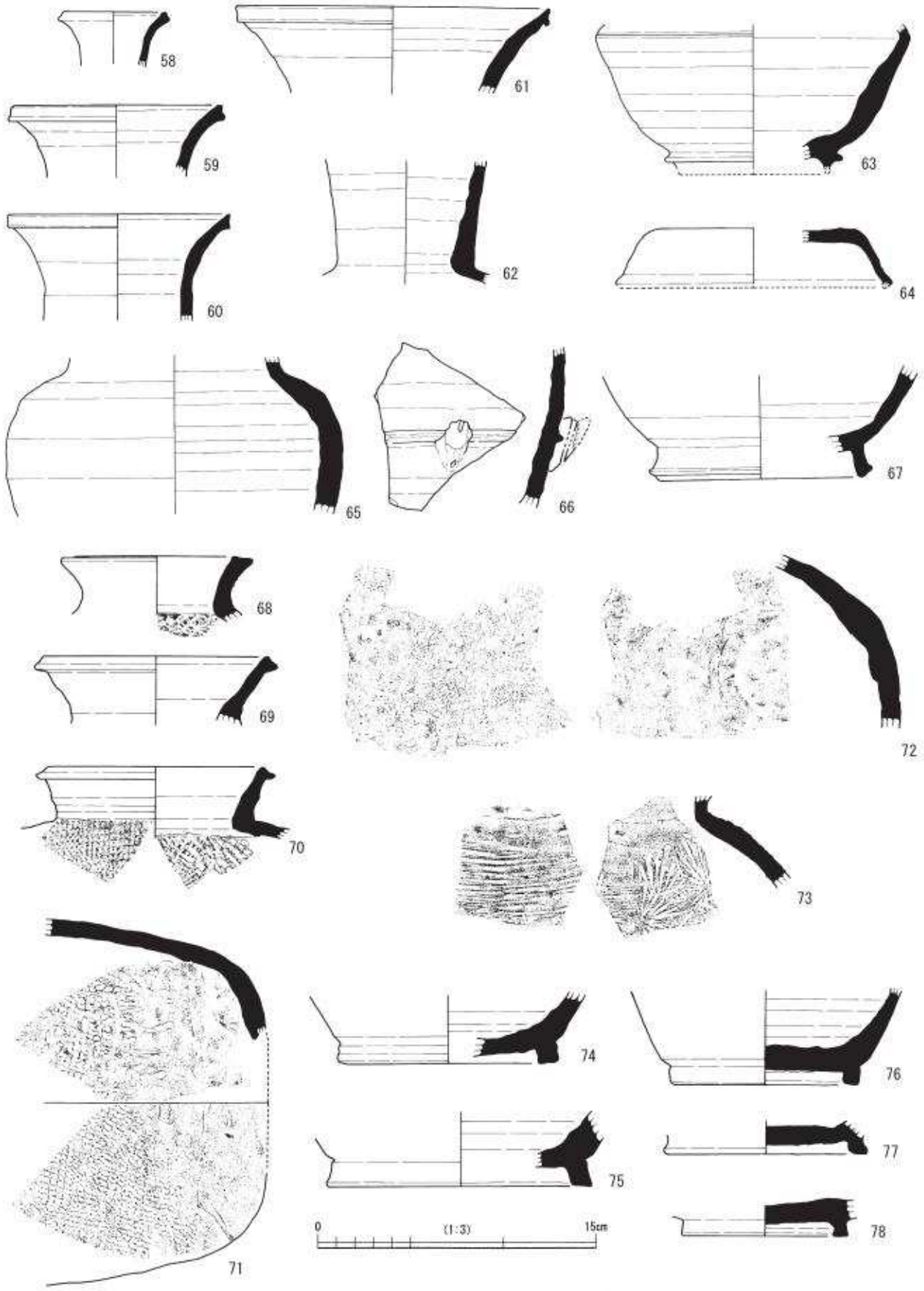
0　(1:30)　2m

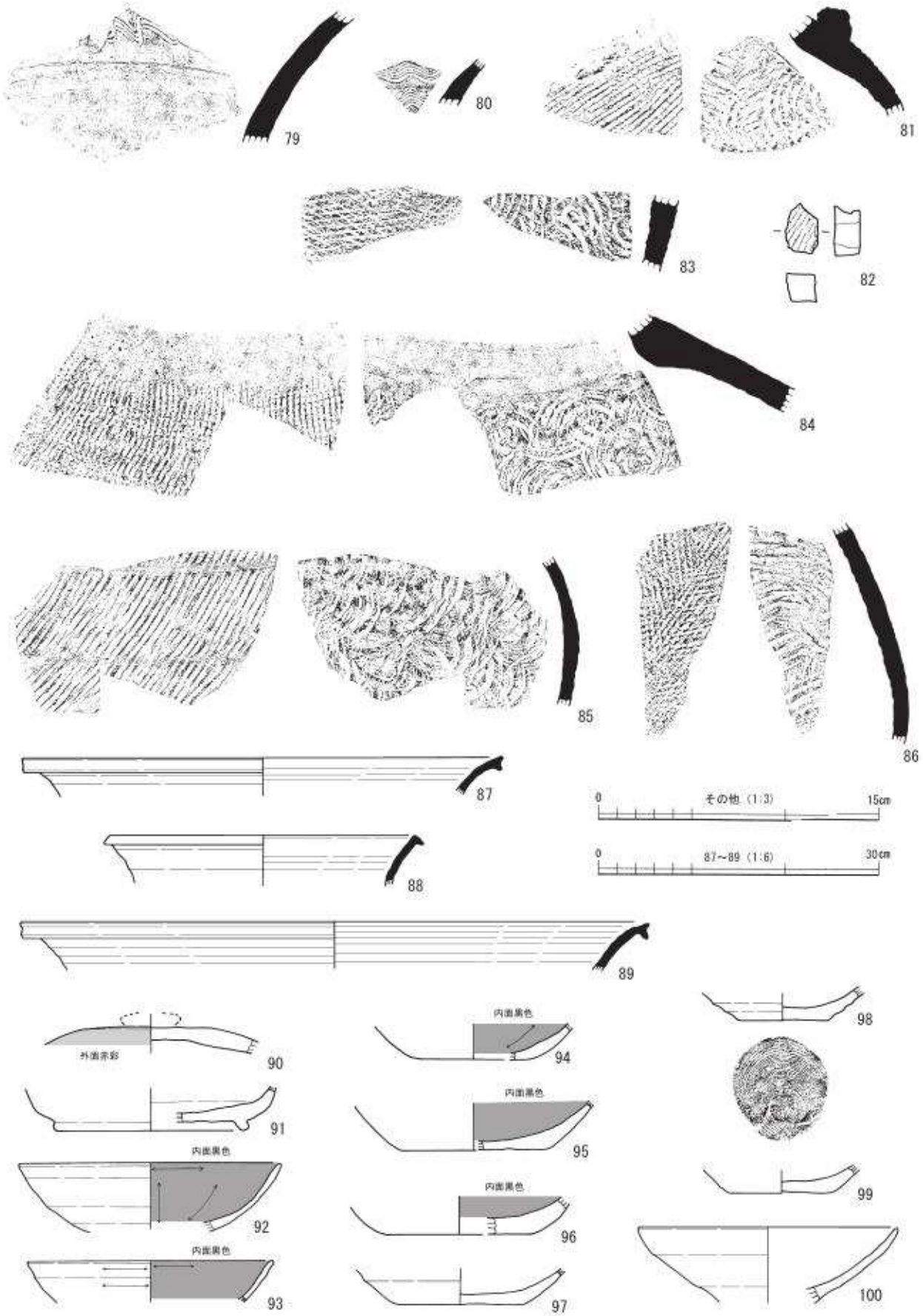
# 遺物実測図（1） SX18・SP22・SP24・遺構外



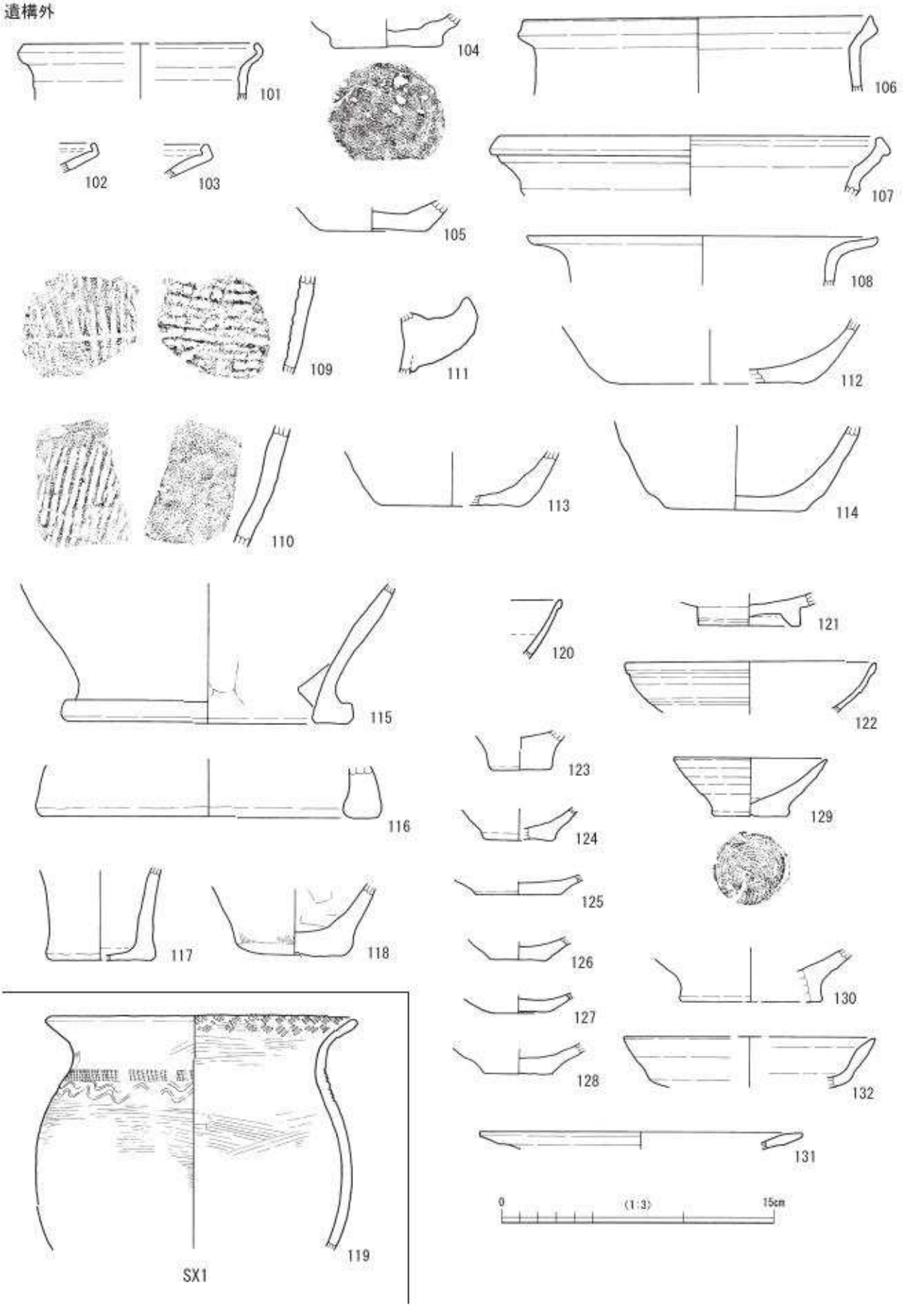

27
29
31
33
28
30
32
34
36
37
35
38
39
40
41
42
43
44
46
47
45
50
54
51
55
52
56
48
49
53
57
0
(1:3)
15cm

# 遺物実測図（3） 遺構外

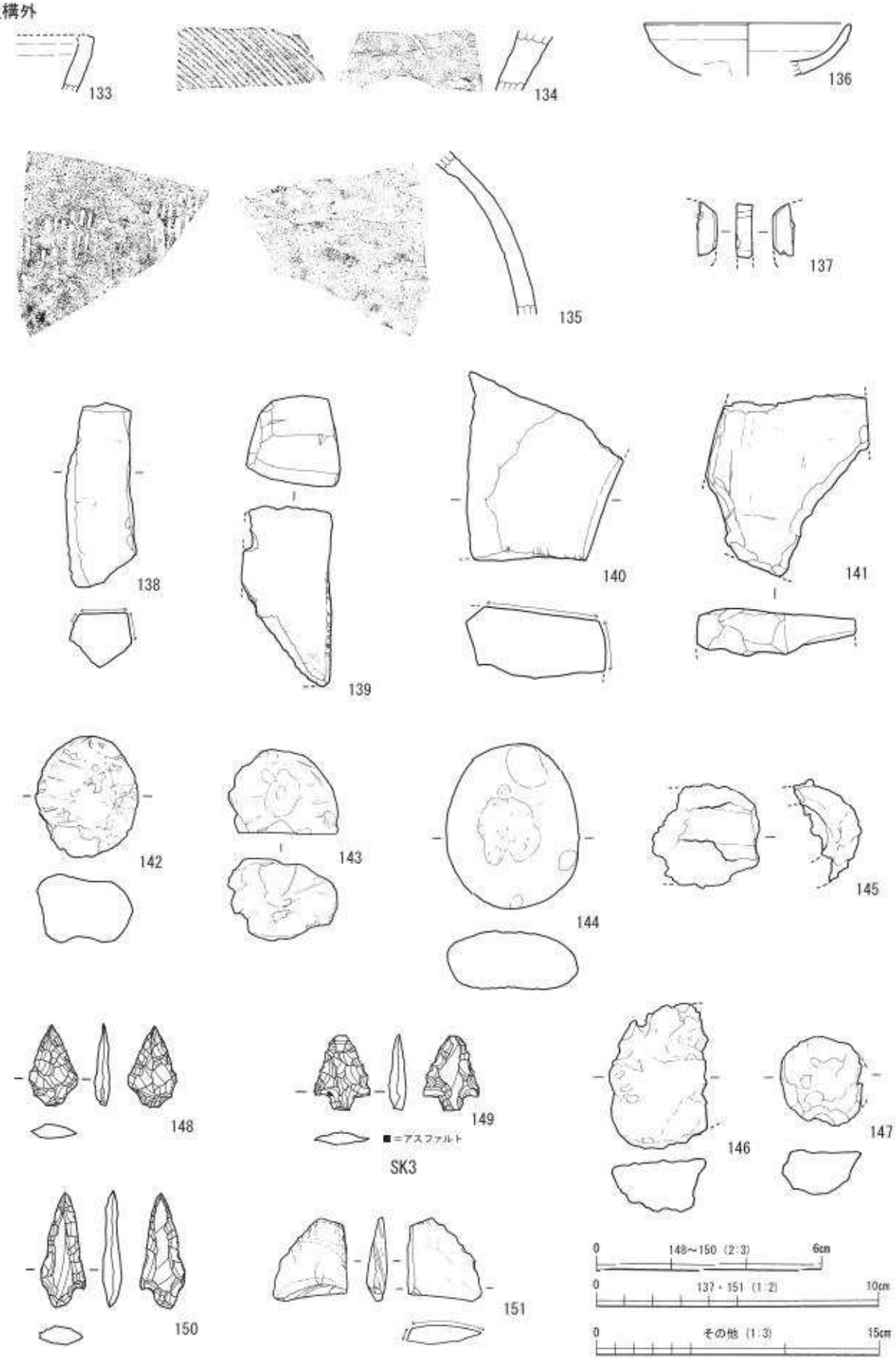



79
80
81
83
82
84
85
86
87
88
その他（1:3）
0
15cm
87~89（1:6）
0
30cm
89
外面赤彩
90
91
内面黒色
92
内面黒色
93
内面黒色
94
内面黒色
95
内面黒色
96
97
98
99
100

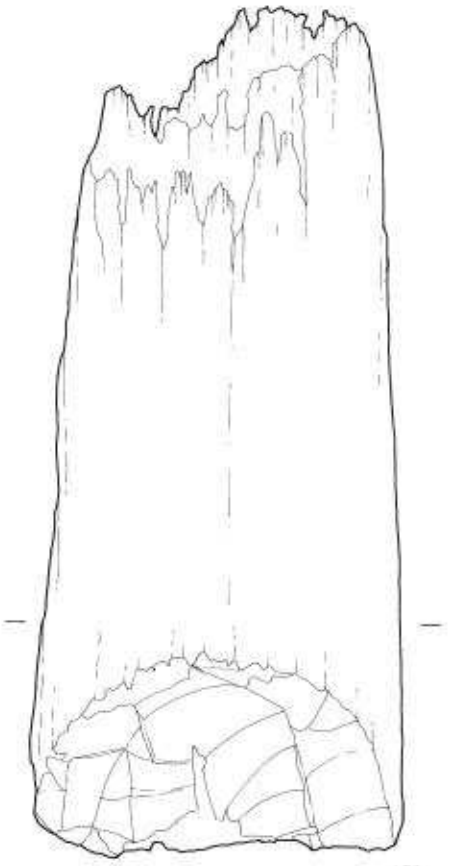
遺構外


101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
SX1
0
(1:3)
15cm

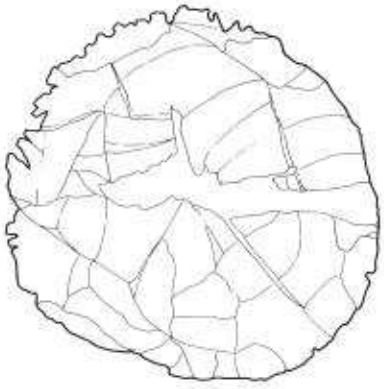
遺構外

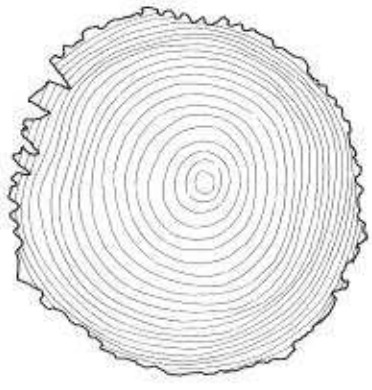

133
134
136
135
137
138
139
140
141
142
143
144
145
148
149
■＝アスファルト
SK3
146
147
150
151
0 148～150 (2:3) 6cm
0 137・151 (1:2) 10cm
0 その他 (1:3) 15cm

# 遺物実測図（７） SP19・SP20・SP24

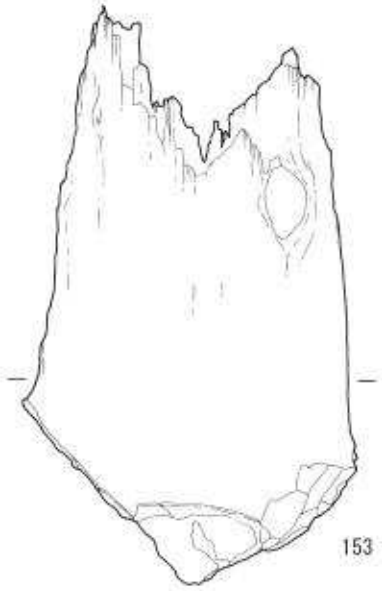


152

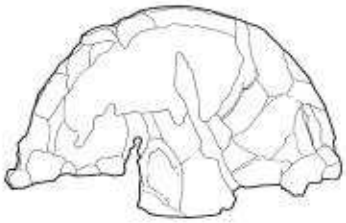


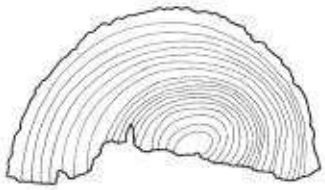


SP19

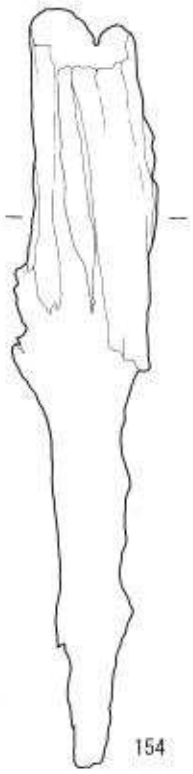


153



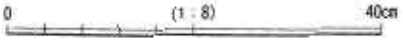


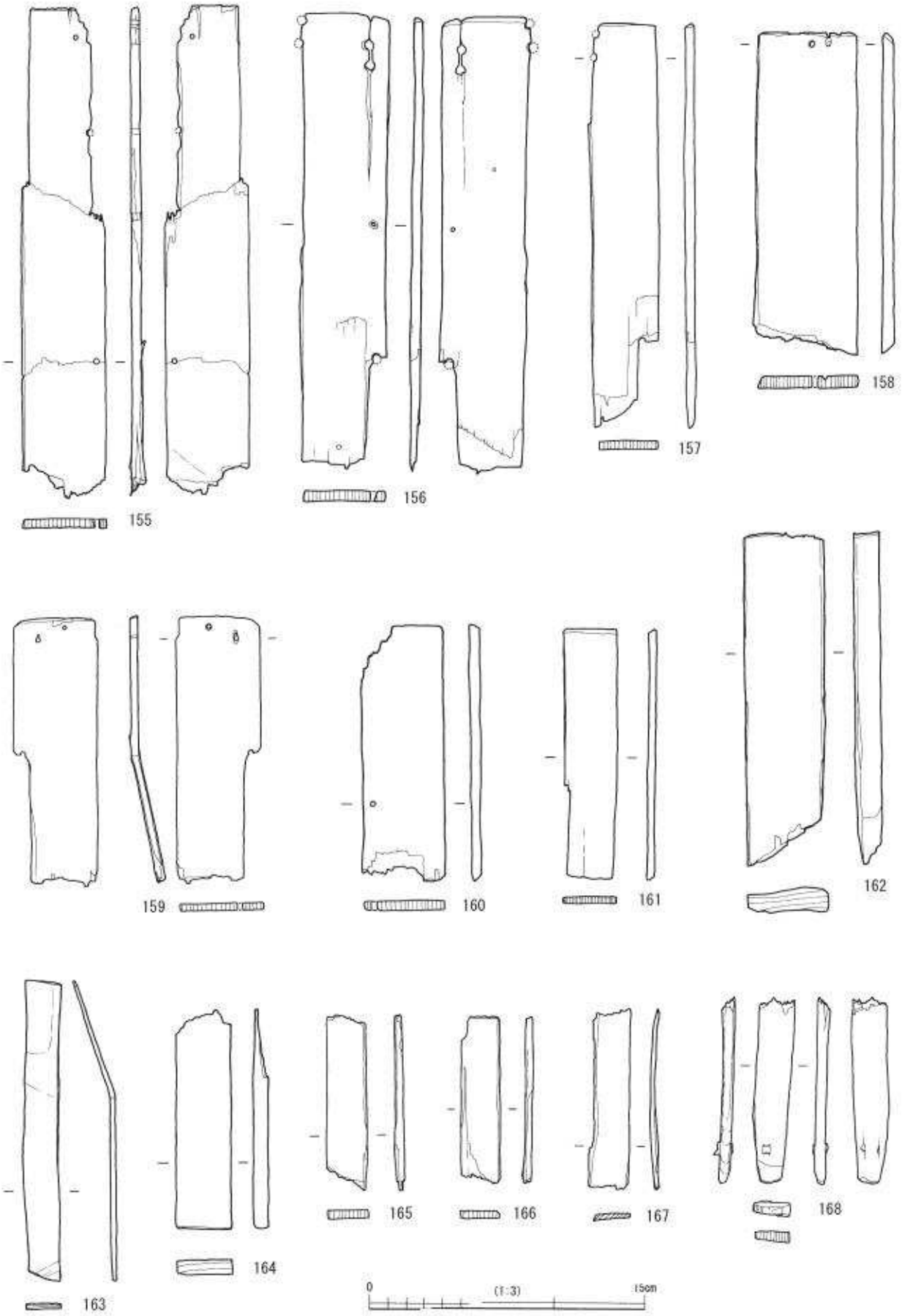
SP20

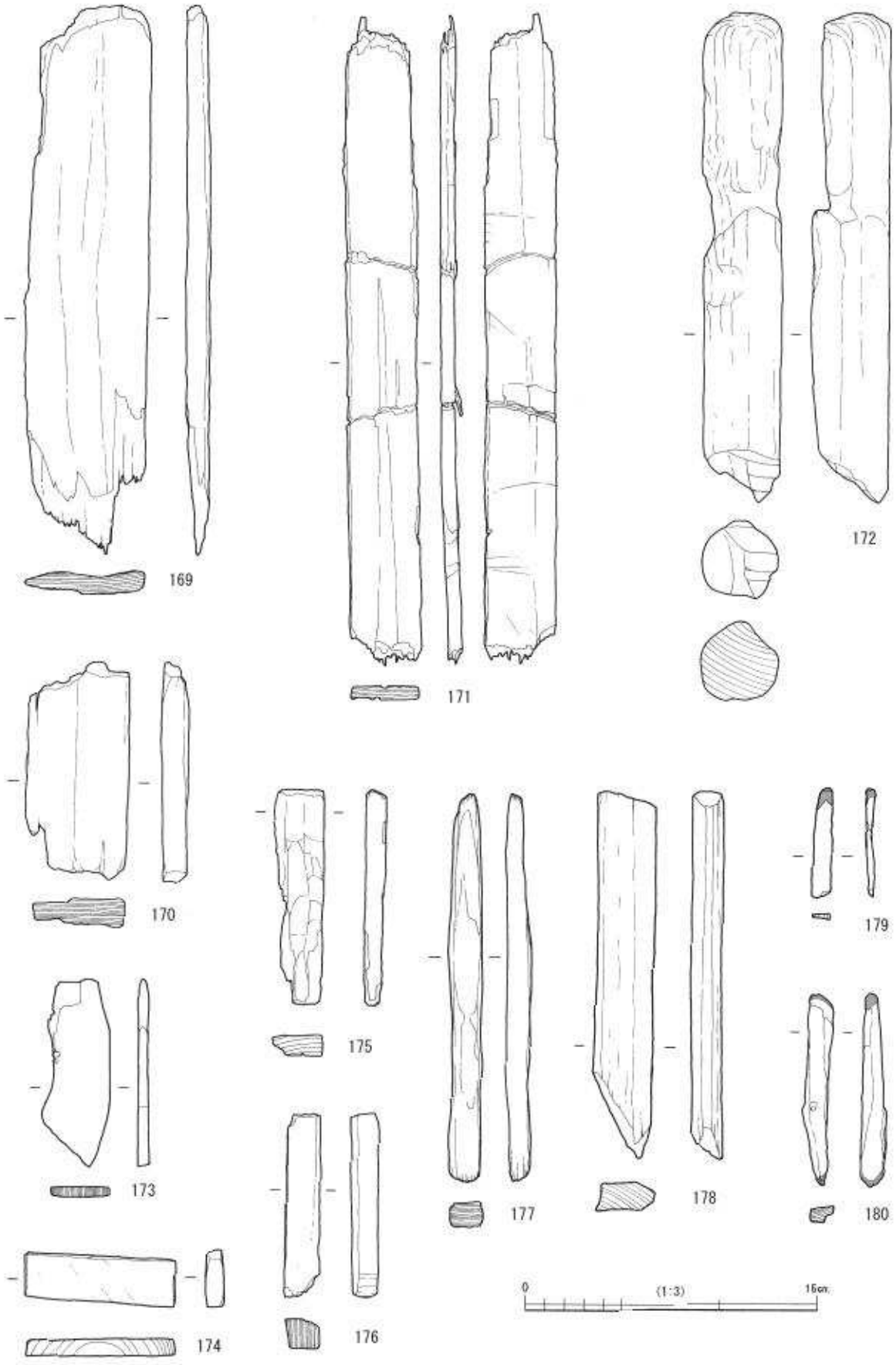


154

SP24




155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
0
(1:3)
15cm

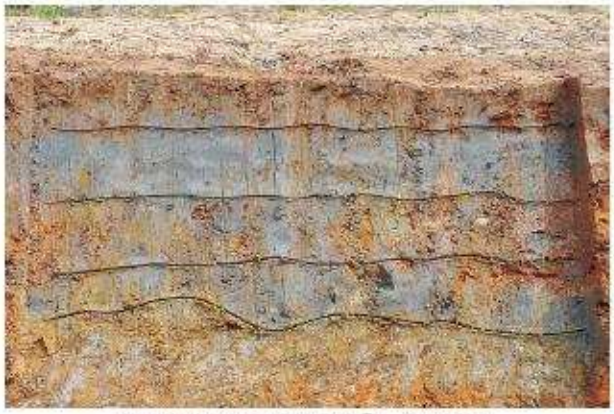

169
171
172
170
175
177
178
179
173
176
180
174
0
(1:3)
15cm

調査地全景（東から）

調査地全景（西から）

１Ｔ基本層序（柱状図②　南から）

２Ｔ基本層序（柱状図⑧　南から）


３Ｔ基本層序（柱状図⑩　南から）

３Ｔ基本層序（柱状図⑮　南から）

３Ｔ基本層序（柱状図⑱　西から）

３Ｔ基本層序（柱状図㉓　東から）

１Ｔ完掘状況（東から）

１Ｔ完掘状況（西から）

２Ｔ完掘状況（東から）

２Ｔ完掘状況（東から）

２Ｔ完掘状況（西から）

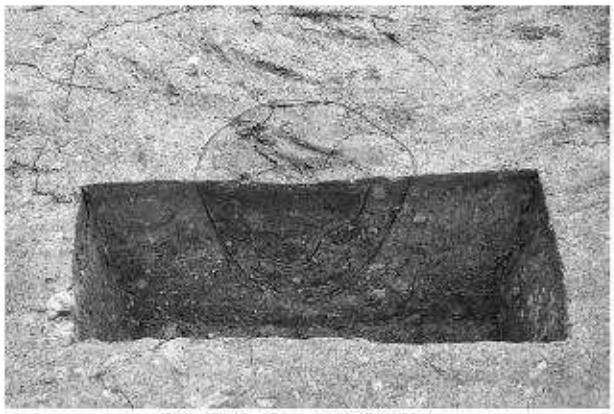
３Ｔ完掘状況（東から）

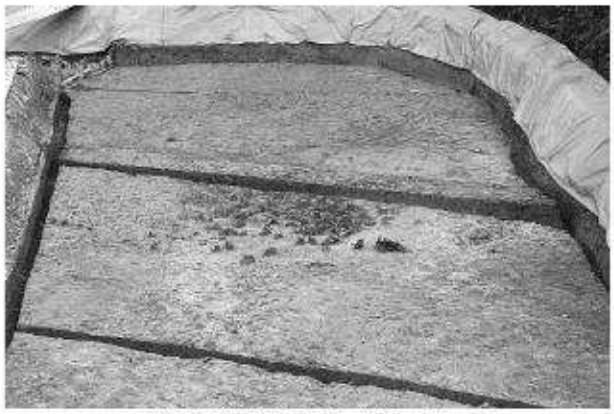
３Ｔ完掘状況（西から）

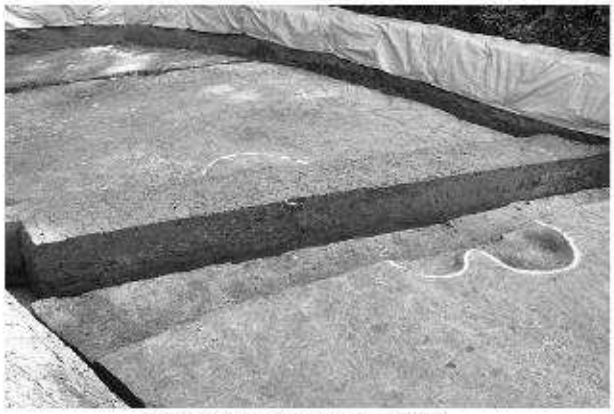
３Ｔ完掘状況（南から）

3Ｔ完掘状況（北から）

22H1 Ⅳ層遺物出土状況（No.45墨書土器）


SP16セクション（東から）


SX18土器集中範囲（北から）


SX18セクション（北東から）

SX18北半セクション（北から）

SP19セクション（北から）

SP20セクション（東から）

表土除去

トレンチ整形

包含層発掘

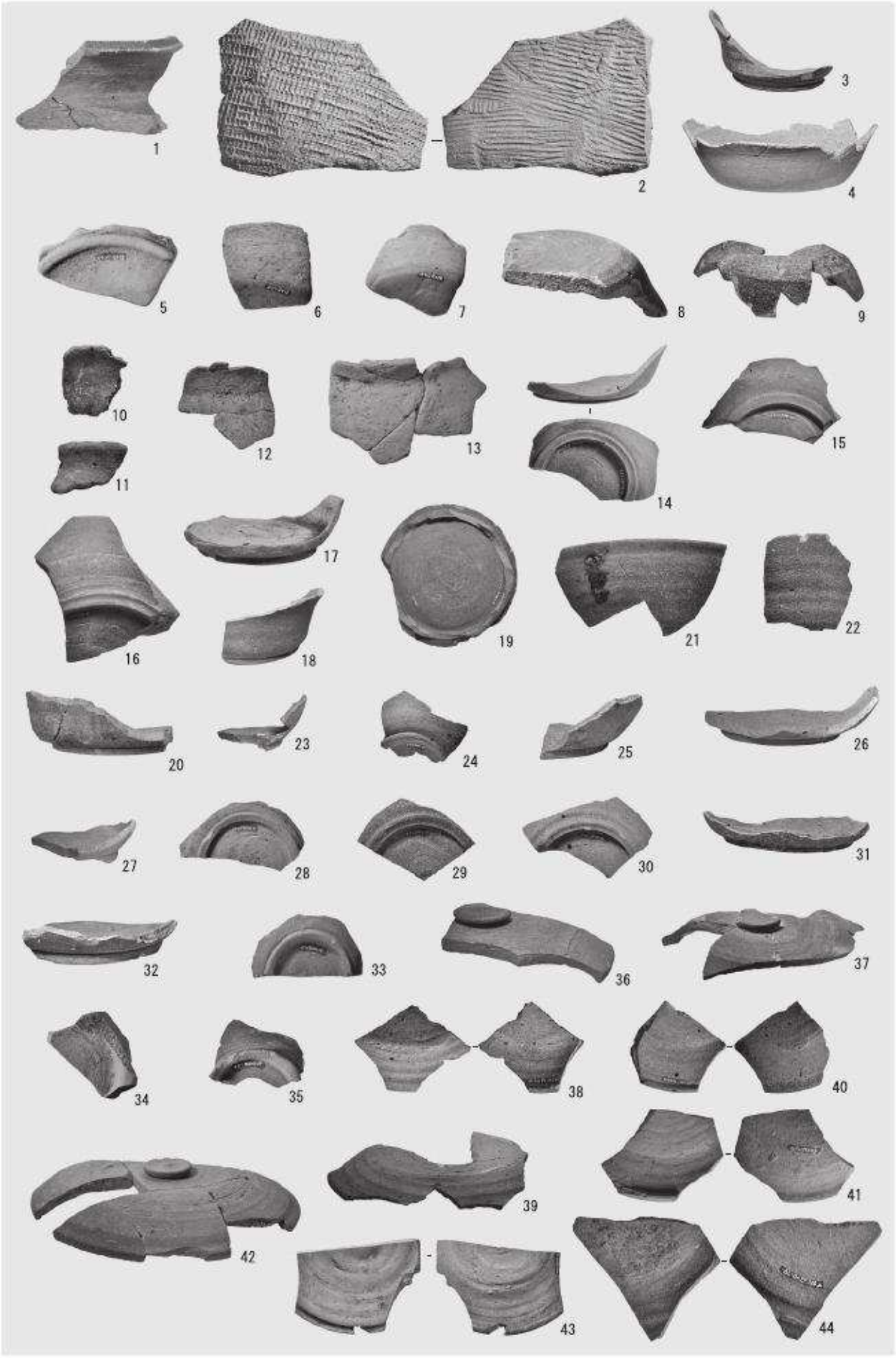
遺構検出

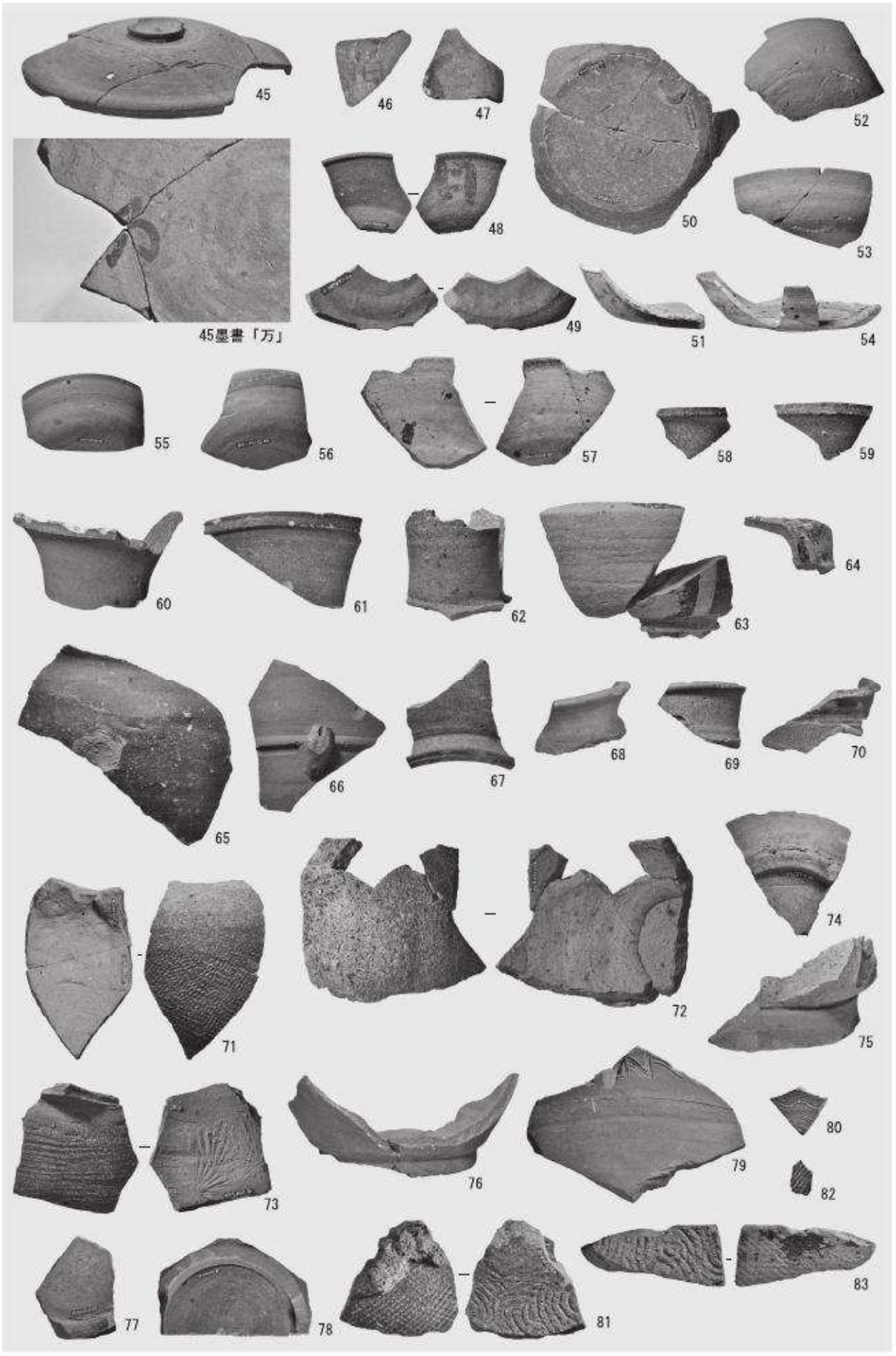
土器清掃

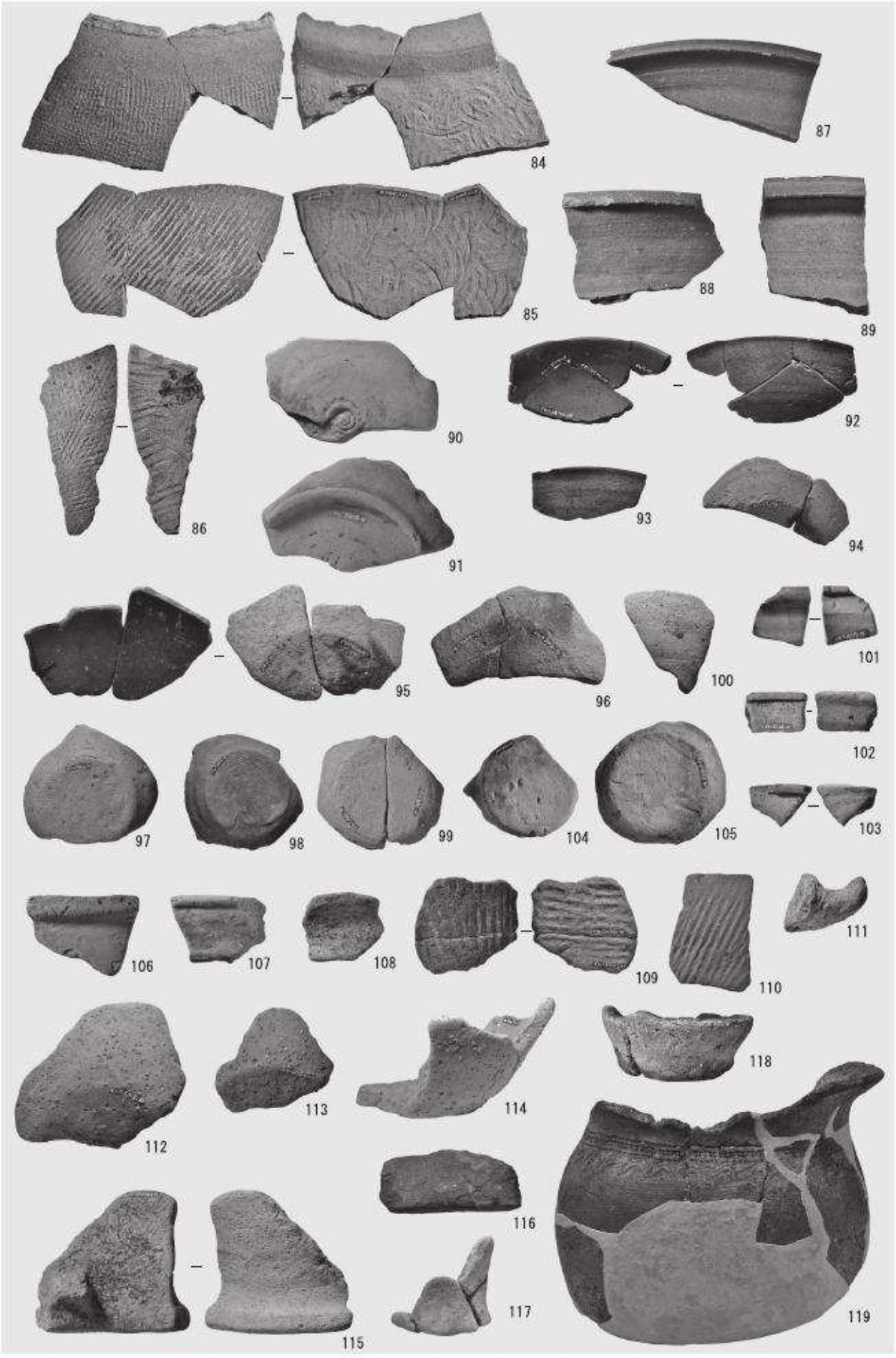
遺物取り上げ

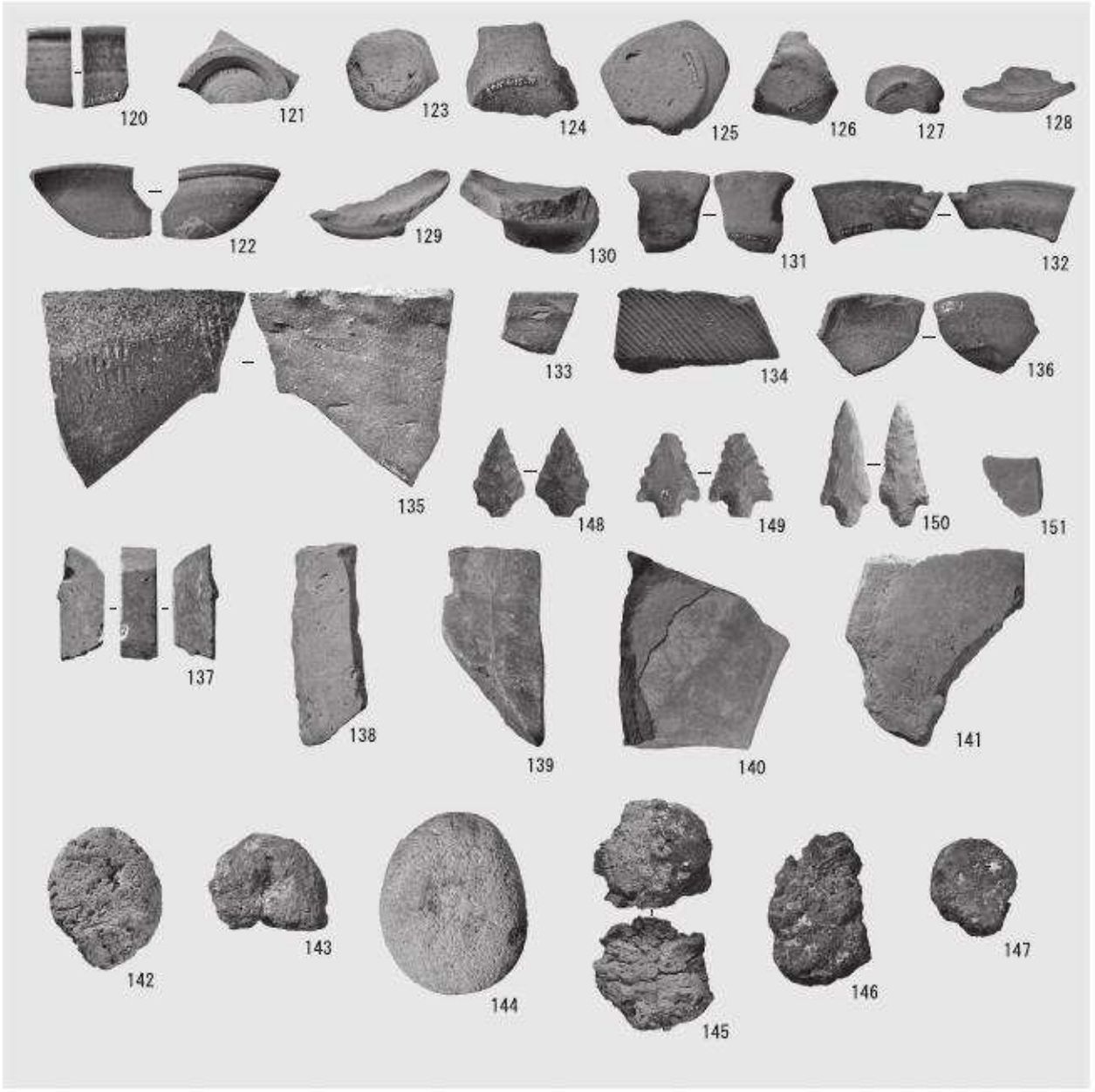
寺泊小学校の発掘調査見学

調査に参加して下さった皆さん


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
21
22
20
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
36
37
34
35
38
40
39
41
42
43
44

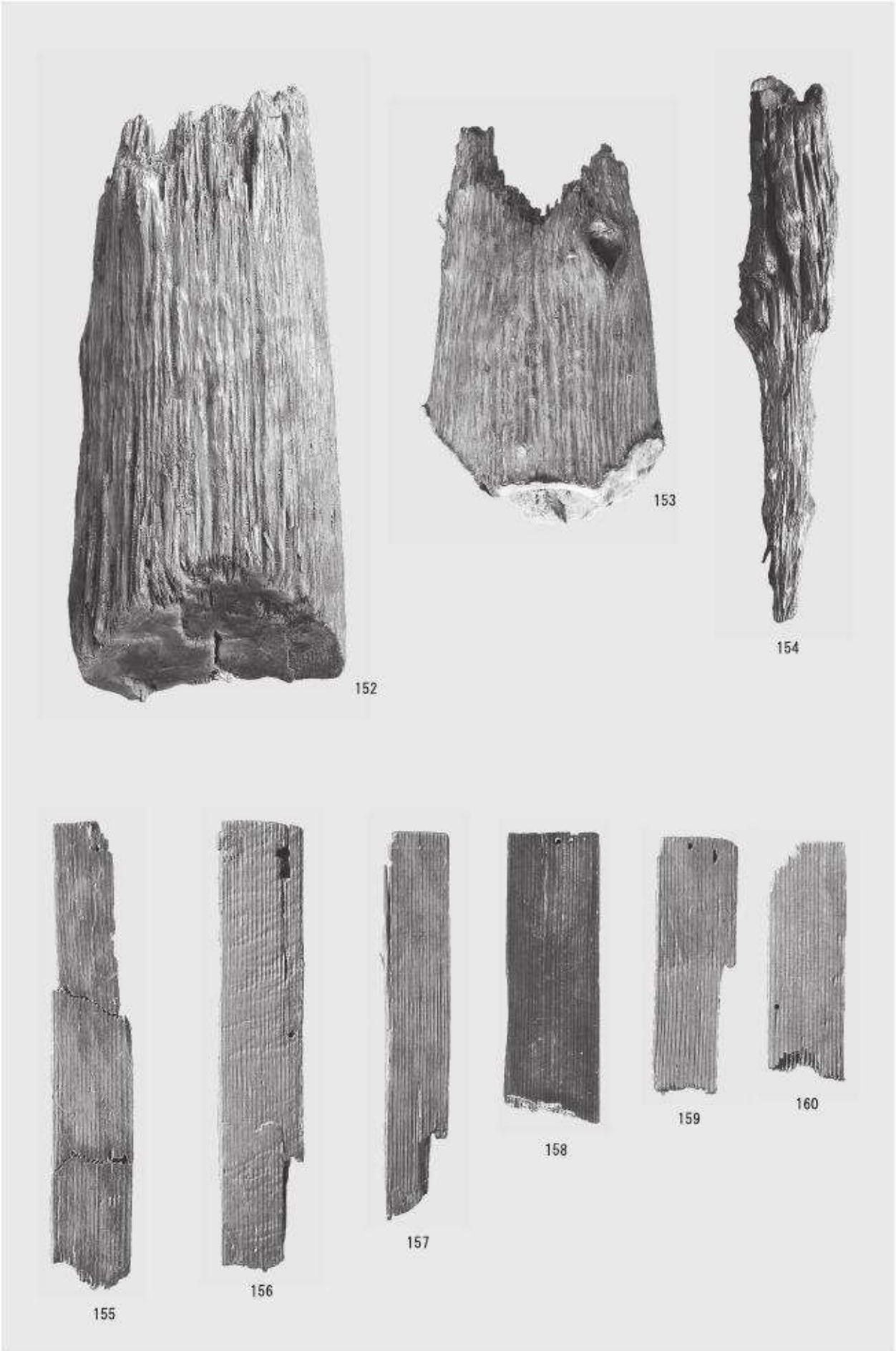

45
46
47
52
48
50
53
45墨書「万」
49
51
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
74
75
73
76
79
80
82
77
78
81
83

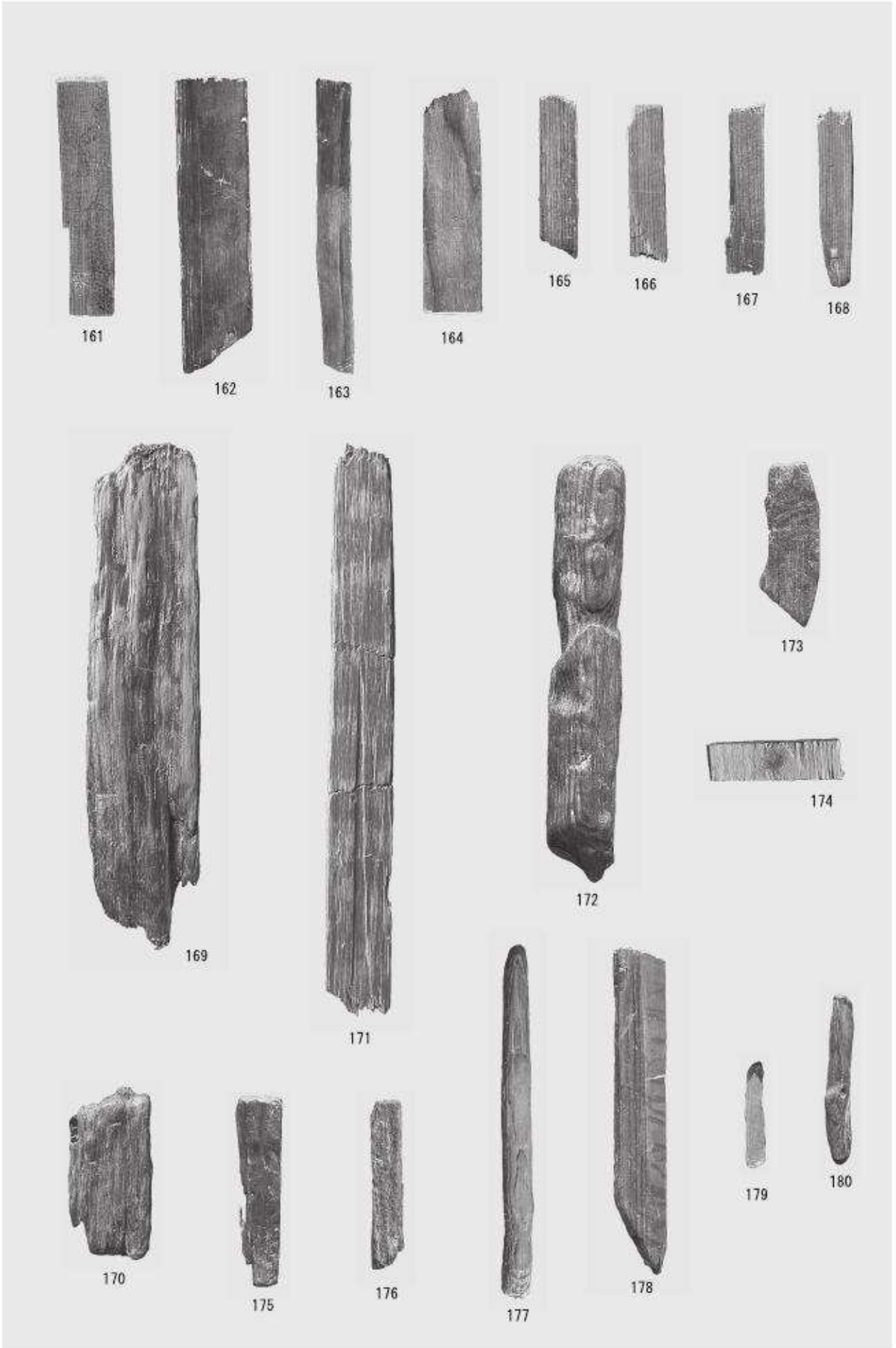

84
87
85
88
89
86
90
92
91
93
94
95
96
100
101
102
97
98
99
104
105
103
106
107
108
109
110
111
112
113
114
118
116
115
117
119



119　櫛描文（頸部）

119　櫛描文（口縁部内面）


152
153
154
155
156
157
158
159
160


161
162
163
164
165
166
167
168
169
171
172
173
174
170
175
176
177
178
179
180

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | いなばいせき |
| 書名 | 稲場遺跡 |
| 副書名 | 県営経営体育成基盤整備事業（潟４期地区）に伴う埋蔵文化財調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 加藤由美子　丸山一昭　小林　徳 |
| 編集機関 | 長岡市教育委員会 |
| 所在地 | 〒940－0084　新潟県長岡市幸町２丁目１番１号　　TEL0258－32－0546 |
| 発行年月日 | 2019年３月15日 |

| 所収遺跡 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡 | | | | | |
| いなばいせき<br>稲場遺跡 | にいがたけんながおかし<br>新潟県長岡市<br>てらどまりおおち<br>寺泊大地 | 15021 | 1249 | 37°<br>38′<br>21″ | 138°<br>47′<br>12″ | 20170510<br>～<br>20170714 | 2,325㎡ | 県営育成体<br>基盤整備事業<br>（潟４期地区） |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時期 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| いなばいせき<br>稲場遺跡 | 遺物包含地 | 弥生時代中期<br>古代<br>中世 | 土坑５・ピット13<br>溝１・不明遺構５ | 弥生土器・須恵器・土師器<br>石製品（丸鞆・砥石）<br>石器（磨製石斧・石鏃）<br>製鉄関連遺物・木製品 | 古代の墨書土器<br>が４点出土 |

| | |
|---|---|
| 要　約 | 稲場遺跡は東頸城丘陵の西側丘陵から内陸側に派生する小丘陵の裾部に立地する。調査の結果、遺構は希薄であったが、古代の須恵器・土師器が定量出土した。これら遺物の内容から、古代の居住域は当初遺跡の西半にあり、時代が下るにつれ円上寺潟に近い東半へと拡大したと考えられる。 |


稲場遺跡

県営経営体育成基盤整備事業（潟４期地区）に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成31（2019）年３月15日　印刷
平成31（2019）年３月15日　発行
発　行　　新潟県長岡市教育委員会
印　刷　　あかつき印刷株式会社